

2018年4月2日

みずほディーラーズアイ (2018年4月号)

みずほ銀行

目次

米ドル相場	2	韓国ウォン相場	9
ユーロ相場	4	台湾ドル相場	10
英ポンド相場	6	香港ドル相場	11
豪ドル相場	7	中国人民元相場	12
カナダドル相場	8	シンガポールドル相場	13
		タイバーツ相場	14
		マレーシアリング相場	15
		インドネシアルピア相場	16
		フィリピンペソ相場	17
		インドルピー相場	18

*見通しは各ディーラーのビューに基づきます。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

米ドル相場

予想レンジ: USD/JPY 105.00 ~ 110.00

国際為替部 為替営業第二チーム 加藤 倫義

先月の為替相場

パウエルFRB議長によって強気の経済見通しが表示されたことを受け107円台半ばを回復していたドル/円相場であったが、三月に入ると一転してドルの上値が重くなり、105円の節目も割り込むこととなった。

2月27日のパウエルFRB議長のタカ派とも受け取れる議会証言を背景に月初3月1日は106円台後半から107円台を窺う堅調推移であったドル/円相場だが、トランプ米大統領が鉄鋼・アルミへの関税賦課を正式に表明したことで世界的な保護主義台頭の懸念が台頭し、株式市場は暴落、ドル/円もリスク回避をテーマとするドル売り円買いが鮮明となった。相関性が薄れて久しいと言われていた日経平均も、リスクオフの動きには敏感に反応して下げ足を強めた。ドル/円は2日にも続落し、105.24円と節目の105円を窺うところまで下落した。

5日からの週は主として北朝鮮問題の緊張緩和によるドルの買い戻しが目立った。南北朝鮮首脳会談の予定が発表され、更に日米首脳会談・米朝首脳会談と矢継ぎ早に首脳会談の予定が発表されリスクオフムードは一服。米政府より関税障壁でカナダやメキシコが適用除外であることが伝わったことも安心感につながった。9日発表された米雇用統計もそれなりに悪くない数字で、ドル/円は再び107円台まで買い戻された。しかし海外勢を中心とした投機筋は先行きの円高予想を諦めることなく、ドルの戻りは確実に売りポジションを積み上げていた。

月半ばの12日からの週も米通商問題など政治関連のテーマが引き続き相場の中心であった。米国ではコーンNEC委員長辞任に続いてトランプ大統領はティラーソン国務長官を更迭、更に翌週にはマクマスター大統領補佐官も更迭することとなる。トランプ政権が対中強硬派メンバーに刷新されたことがリスクオフムードを再燃させた。

翌週ついにトランプ大統領は中国に対し大規模な関税賦課を発表、これを受け中国も相互関税を発表するに及んで通商問題はついに貿易戦争の様相を呈してきた。本邦は鉄鋼・アルミ関税の提要除外とはならずリスクオフをテーマとした大規模なドル売りにドル/円は節目である105円を下抜け。しかしながら104円台ともなると本邦輸入企業からの旺盛なドル買い意欲が観察されたこと、北朝鮮問題、米中通商関係に改善の期待感が浮上したことや、イースター休暇を控えた欧米のファンドマネージャーのポジションリバランスによってドル/円は急速に持ち直し、再度107円台を示現した後、106.27円で2017年度を終えた。

今月の見通し

今月のドル/円は、政治要因を背景としたリスクオフをテーマの円買いが落ち着き、トレンドの転換まではいかないまでも底値を固める動きを予想する。

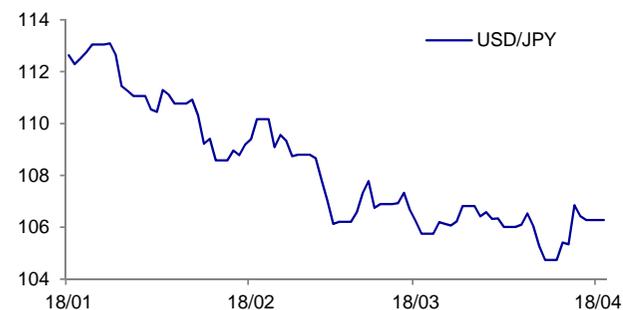
先月は米中貿易戦争の勃発の可能性に市場参加者は恐怖し、リスクオフの円買いが加速し節目である105円を割り込んだ。というよりも、リスクオフの円買いをテーマに投機筋が円ロングポジションを膨らませた感が強い。少なくとも3月中に関しては2017年度内の円転玉が本邦輸出企業を中心に見込まれたことや、本邦投資家は年度末で大きく動けないという環境であったことから、相場は投機筋にとってドルの戻り売りからの市場参入をしやすい状況でもあった。しかしながら新年度を迎えれば実需の円転が勢いを失う一方で、本邦投資家からは新規投資の円投フローが期待できるだろう。レベル感からの長期輸入が替は継続しようことから、投機の売りに対して投資の買いと実需の買いといった構図が想定される。また、米中双方から示された関税の規模は双方ともGDP比0.1%程度のものであり、冷静に考えると貿易戦争というよりもジャブの打ち合いに過ぎない規模であるとも考えられ、双方とも本気であるのか疑問も沸いてくる。中国という国は何千年も権力闘争の歴史を積み重ねてきた国であり、当局者の政治手腕は老獪であろう。米国はその老獪な中国の胸を借りて、ジャブを打ちながら中間選挙に向けてのイメージ作りをしているだけの気もする。そうであるなら、泥沼のチキンレースになってしまうと考えることは杞憂であろう。逆に米国が中国に対し本気で立ち向かう場合には日米同盟こそ重要であり、その同盟国に通商問題で圧力をかけることは考えづらい。

他方、本邦の政治情勢に目を向けると、森友問題で混迷を極めていくのかのようにメディアは喧伝しているが、そもそも前回の総選挙において薄々の疑念はあるものの国民は自民党を選択したわけで、たとえ安倍政権が揺らいでも国民は今回も自民党が下野することまでは想定していないだろう。そうであれば現在の非伝統的金融緩和状態が早々に出口に向かうことは考えにくいし、やはり他国とは1周、2周遅れの状態に大きな変化はないと思う。

もし環境が大きく変わるとすれば、サイクル的に減速が予想される米国の実体経済に影が差すことであろう。その場合は世界的に株価が下降トレンド入りし、米国の金利も上がりドル離れが加速しうる。ただ、足許で世界のマクロ経済ファンダメンタルズは依然として好調であり、減速するとしてももう少し先のことと想定する。

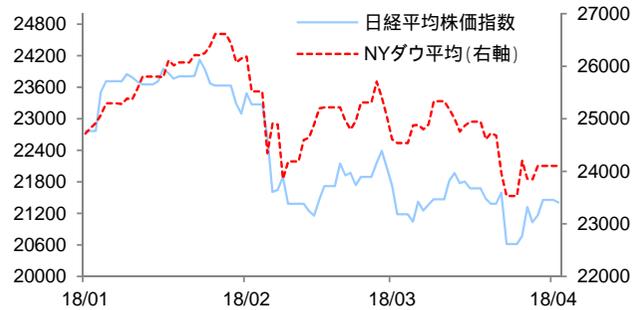
為替の動き

(資料) ブルームバーグ



株価指数の動き

(資料) ブルームバーグ



先月の注目イベント

(資料) ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/2	米ISM製造業景況指数	2月	58.7	60.8	59.1
3/6	米ISM非製造業景況指数	2月	59.0	59.5	59.9
3/9	非農業部門雇用者数変化	2月	205K	313K	200K
3/9	米失業率	2月	4.0%	4.1%	4.1%
3/9	米平均時給(前年比)	2月	2.8%	2.6%	2.9%
3/13	米消費者物価指数(前年比)	2月	2.2%	2.2%	2.1%
3/14	米小売売上高(前月比)	2月	0.3%	-0.1%	-0.3%
3/16	米住宅着工件数	2月	1290K	1236K	1326K
3/22	パウエルFRB議長会見	-	-	-	-

カスタマーディーラーの相場観、注目点(本編の内容とは必ずしも一致しません)

ドル・ブル (5名、104.00~113.00、中心104.00~110.00)

加藤	105.00 ~ 110.00	本邦の金融政策に変化が期待できない以上、本邦投資家がキャッシュをJGBに振り向けることに限界がある。やはり、ある程度オープンにしながら外債に向かわざるを得ない。
佐藤	104.00 ~ 110.00	新年度入りしたことで、決算対策絡みの外貨売りは減退する一方、本邦機関投資家による外国証券投資への期待が高まりやすい。北朝鮮情勢の緊張緩和もドル/円の下支え要因となりそうで、ドル/円は戻りを試す展開に。
藤巻	104.00 ~ 113.00	2月の株急落からの後遺症からかボラタイルな相場展開が継続している。但し、景気については良好、FRBも引き締め継続、そしてこれまでドル安を引っ張ってきたユーロが軟調に転じつつあることから、ドルには買いが入る可能性もある。リスクは株急落によるリスクオフ。
鶴田	104.00 ~ 109.00	米中貿易摩擦の拡大が懸念される状況ではあるが、昨年最安値の一因となった北朝鮮リスクは足許で転機を迎えようとしている。中朝首脳会談が実現し、今後は日米韓首脳会談も予定しており北朝鮮リスクの後退に期待感が高まる中、ドル円相場のサポート材料となりそうだ。
大熊	104.00 ~ 111.00	米中貿易摩擦に関しては水面下で緊張緩和に向けた交渉が行われている可能性が高く、米国の過度な保護主義懸念は和らいでいる。また、金正恩委員長が非核化に前向きな姿勢を示す等、北朝鮮リスクが後退していることもあり、リスクオンからドルの買い戻しが進むと予想する。

ドル・ベア (6名、102.00~109.00、中心103.00~108.00)

田内	103.00 ~ 108.00	南北・米朝・日朝首脳会談を控え朝鮮半島を巡る地政学リスク沈静化による円高圧力後退を見込む向きはあるものの、根強い円高圧力に上値は限定的と見る。日米政局不安やトランプ米政権による対日不均衡是正圧力がかけられ続ける可能性は高いとの見方から、燻り続ける警戒感が重石となろう。
山下	102.00 ~ 107.00	今月は米国の為替報告書が公表される予定であり、貿易問題と相俟って各国との更なる摩擦が生じる可能性は高い。日米の金融政策に大きな変化がない限り、地政学的リスクは為替動向の要因とされ易く、リスク回避の円買いが進むものと考え。
矢野	103.00 ~ 108.00	米国の利上げは3月を含み年4回との見方が強まるものの、そのペースでの利上げは実施出来ないと見ている。また、利上げを実施しても投資家の債券買い需要が勝り、日米金利差拡大も限定的。引き続きレンジ相場が継続すると予想。
岡本	102.50 ~ 109.00	FRBの利上げは織り込み済の中、米国発の貿易戦争を受けたドル売りの流れは変わらないものと思料。4月は米国の為替政策報告書のタイミングでもあり、新たな火種が生まれる可能性も高く、引き続き下落するリスクに警戒したい。
西谷	103.00 ~ 108.00	米中貿易摩擦懸念が依然として燻っており、同問題は一朝一夕で解決できる問題ではない。いつ日本にその矛先が向くとも限らず、そのリスクが残る以上、ドル円の大幅な戻りは期待できない。水準的にも先月節目となる105円を割り込む場面が見られるなど、下落トレンドは継続すると予想する。
森谷	103.00 ~ 108.00	先月FOMCでは事前予想通り利上げが実行され、今後も継続的に利上げを行うとの見方は不変ではあるがドル買いは盛り上がりづらい状況が続いている。米国の通商政策に対する先行き不透明感は依然として残ったままであり、引き続きリスクオフの円買いにより下押しされる局面が見られると予想。

ユーロ相場

予想レンジ: EUR/USD 1.2100 ~ 1.2600
EUR/JPY 129.00 ~ 134.00

国際為替部 為替営業第二チーム 西谷 鷹

先月の為替相場

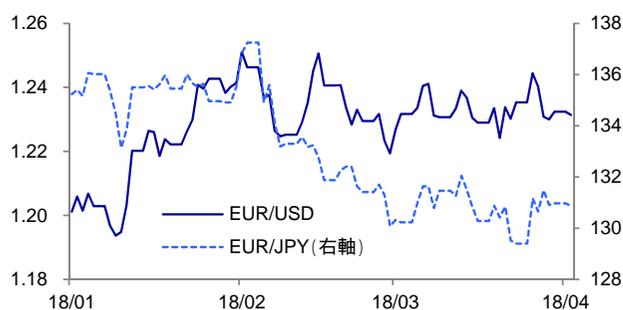
3月のユーロ相場は上昇する展開となった。
第1週は、月初1日に1.2200レベルでオープン。その後、「ECBが翌週の政策会合で緩和バイアス削除を議論か」との一部報道や米国の追加関税導入を受けたドル全面安の展開に、1.22台後半まで上昇。翌2日もドル売りの流れが続き、1.2330近辺まで続伸した。
第2週は、週末に行われたイタリア総選挙で中道左派、中道右派、ポピュリズム政党のいずれも過半数に届かなかったことから1.2269まで下落。しかし独第2党、社会民主党(SPD)がキリスト教・社会同盟(CDU・CSU)との大連立に合意したと報じられると1.23台前半まで反発。その後もユーロ高の流れが続き、7日には1.2447まで上昇。8日はECB政策理事会後の声明文で「必要に応じて拡大資産購入プログラム(APP)の規模拡大」との文言が削除されたことから一時1.2446まで上昇するも、その後のドラギECB総裁会見でハト派な姿勢が示されたことから1.2298まで急落した。翌9日は米2月雇用統計が強弱入り混じる結果となり、1.23ちょうどを挟みでの揉み合い推移となった。
第3週は、13日は米金利低下を横目に1.2360まで上昇。その後、ティラーソン米国務長官解任を受けてドル売りの流れが強まると1.23台後半まで続伸。さらに「米国が中国関税強化・投資制限方針」との報道に一時1.24台に乗せる場面も見られた。しかし、14日にドラギ総裁より「ユーロ高が今後のインフレ動向への重石となる恐れがある」との発言が見られると、1.23台半ばまで急落。週後半にかけて一時1.2260まで下落した。
第4週は、19日に「今年末に量的緩和を終了し、来年半ばに利上げを見込む市場の予測はECBとしても違和感がない」との報道に1.23台半ばまで上昇。20日かけて一時下落する場面が見られたものの、21日のFOMCの結果を受けてドル売りが優勢となる中、再び1.23台半ばまで反発した。週後半にかけては米中貿易摩擦への懸念が強まる中、1.22台後半～1.23台半ばのレンジ内で推移した。
第5週は、バイトマン独連銀総裁の「ECBの金融政策正常化は早急に開始すべき」とのコメントが材料視され1.24台半ばまで上昇。その後、米中貿易摩擦への懸念後退を受けたドル買い優勢地合いに1.23台後半まで下落した。週後半にかけては月末に絡むドル買いフローに押される形で1.2300近辺まで続落。1.23台前半で越月した。

今月の見通し

今月のユーロ相場は底堅い展開を予想する。
2月以降、ユーロ相場は1.22-1.25のレンジ相場に入ってしまった。1.25を上抜ける程の力強い材料が見当たらない一方、1.22台では相応に買い意欲が見られるといった印象。中期的な見通しは依然としてユーロブルであるものの、足許なかなか上昇の取っ掛かりが見出せない状況である。
先月は欧州でいくつか重要なイベントをこなした。イタリア総選挙では中道右派が最大勢力となったものの、過半数に達した政党がなかった為、他党との連立が不可欠な状況。極右政党・五つ星運動が連立に絡むとの見方もあり、連立交渉次第ではリスクが煽るが、一旦は落ち着いたとの印象。また、独政治リスクが後退したこともユーロの上値を押さえる要因の1つが取り除かれたと言えよう。
先月のECB政策理事会ではAPPについて規模拡大に係る文言は削除されたものの、「必要に応じて9月以降もQE継続」といった文言は残されたほか、インフレ見通しも下方修正され、緩和姿勢継続との評価に繋がった。しかしその後はECB高官より利上げへの地均しとも取れるような発言が見られており、ECBの正常化に向けた道筋は確かなものと思われる。ECBは2018年6-7月頃までにはAPP継続の有無を市場にアナウンスする必要があり、順調にAPPを廃止できれば年内には利上げに向けた青写真を示す可能性がある。市場は2019年半ば頃に1回目の利上げを見込んでおり、もちろんECBはそれまでのプロセスに十分気を使うであろうが、根底に期待感がある以上、ユーロ高方向を基本線に臨みたい。
また、外部要因によるユーロ高も想定され得るところ。具体的には米国の通商政策に係る動向次第ではグローバルに貿易摩擦が広がるとの懸念から、ドル売りが進行する可能性がある。特にEUは米国の追加関税には報復措置も辞さないとの姿勢を示しており、同問題を受けたユーロ高進行には注意する必要がある。足許、やや沈静化してきている印象ではあるものの、引き続きリスク要因であることに変わりはなく、今後の動向を注視していきたい。
上述のような理由から、今月のユーロ相場は底堅い推移を考えている。但し、ユーロが急激に上昇する程のインパクトある材料もない為、底堅さを維持しつつ、上値を試すタイミングを窺う展開を予想する。

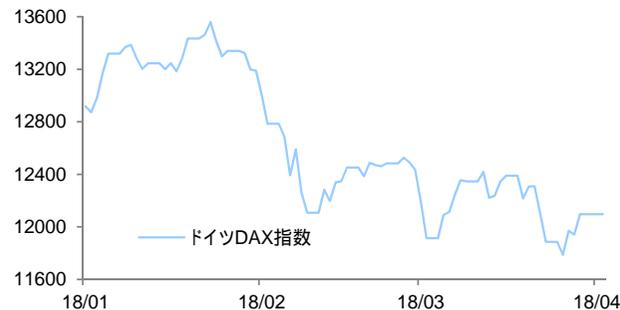
為替の動き

(資料) ブルームバーク



株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/1	ユーロ圏製造業PMI	2月	58.5	58.6	58.6
3/5	ユーロ圏小売売上高(前月比)	2月	-0.1%	-0.1%	-1.0%
3/7	ユーロ圏GDP(前年比)	4Q	2.7%	2.7%	2.7%
3/8	ECB主要政策金利	-	0.00%	0.00%	0.00%
3/9	独鉱工業生産(前月比)	2月	0.6%	-0.1%	-0.5%
3/16	ユーロ圏CPI(前月比)	2月	0.2%	0.2%	-0.9%
3/20	独ZEW景況指数(期待)	3月	13.0	5.1	17.8
3/21	ユーロ圏消費者信頼感	3月	0.0	0.1	0.1
3/22	独IFO現況指数	3月	125.6	125.9	126.4

(資料) ブルームバーク

カスタマーディーラーの相場観、注目点(本編の内容とは必ずしも一致しません)

ユーロ・ブル (1名、1.2100~1.2600、中心1.2100~1.2600)

西谷	1.2100 ~ 1.2600	足許、ユーロが大きく上昇する程のインパクトのある材料は無いものの、ECBの正常化に向けた足取りはたしかであり、QE終了、さらに先の利上げへの期待感がある以上、ユーロは底堅い展開を予想する。また、欧州政治リスクが一旦後退したことも、ユーロのサポート材料だろう。
----	-----------------------	---

ユーロ・ベア (10名、1.1900~1.2600、中心1.2000~1.2500)

田内	1.2000 ~ 1.2500	ECBによる利上げ見通しやフォワードガイダンス調整の思惑から底堅い推移が予想されるものの、欧州・ロシア関係悪化懸念やイタリア議会で北部同盟と五つ星運動による反EU政権が樹立される可能性等がユーロの上値を抑える要因となり、伸び悩む展開を予想する。
加藤	1.1900 ~ 1.2400	ユーロ圏の経済指標に陰りが見え始めた主因はユーロ高であり、金利正常化の足枷となっている。従って、金利正常化はより時間をかけたものにならざるを得ず、ユーロの上値は徐々に重くなっていくものと予想する。
山下	1.2000 ~ 1.2400	ユーロ高が域内の経済を鈍化させており、更なるユーロ高にはECBによるそれ相応の牽制が入る可能性が高い。イタリア政局は混沌としており、ドイツの連立政権への不安も残る中、ECB利上げ期待だけでユーロを買い進めるのはリスクと考える。
矢野	1.2100 ~ 1.2400	直近のECBではタカ派的な発言は確認されず、物価動向も下方修正されるなど積極的な買い材料は見出しにくい。引き続き金利正常化までの時間軸は長いものと見られることから積極的な買いは手控えられ、上値の重い地合いが続くと予想。
佐藤	1.1900 ~ 1.2500	ECBによる拡大資産購入プログラム縮小への観測は、テーマ性としては既に鮮度が落ちており、ユーロ上昇のドライバーとしては力不足。積み上がってきたドルショートポジションの調整が入りやすく、ユーロは上値の重い展開か。
藤巻	1.2100 ~ 1.2600	ECBはタカ派コメントを継続させており、将来的な利上げも意識される中、ユーロには買いが入る可能性がある。但し、足許市場予想を下回る経済指標が散見されており、インフレも伸び悩む中、ロングポジションが溜まるユーロには売りが入る可能性も。
岡本	1.1900 ~ 1.2500	ECBのテーパリングを材料にしたユーロ買いは一巡したと思われ、一段と上に行くには手掛かり不足か。ECBスタッフはユーロ高への警戒感を解いておらず、上値の重い展開が予想される。
森谷	1.2000 ~ 1.2500	ECBは緩和縮小を着実に進めている状況ではあるものの、正常化期待を背景とした上昇局面は一服している。イタリアやドイツの政治リスクも意識されている状況下、ユーロは伸び悩む展開を予想する。
鶴田	1.2100 ~ 1.2550	ECBが着実に出口政策を進める中、ユーロ相場が一方的に下落する展開は考えづらいものの、ここから一段と上昇するには材料不足。インフレ指標は引き続き伸び悩む中でECBメンバーからはユーロ高を警戒する動きも見られる状況。今月のユーロ相場は一定のレンジ内での上値の重い展開を予想する。
大熊	1.1900 ~ 1.2500	3月のECBではインフレ見通しが下方修正されており、経済指標も軟調な結果が目立つ。ECBメンバーのタカ派的発言は増したものの、金融正常化を急いでいるとは思えないことや、ドイツやイタリアの政局不安も払拭されない状況下ではユーロは上値重く推移するだろう。

英ポンド相場

予想レンジ: **GBP/USD 1.4000 ~ 1.4700**
GBP/JPY 147.00 ~ 160.00

欧州資金部 山本 泰平

先月の為替相場

3月のポンドドルは、序盤、英欧が公表した交渉指針での隔りが嫌気されたが、移行期間が正式合意されると楽観論が浮上したことから、右肩上がりの展開。

1.37台中盤でオープン後、パウエルFRB議長が議会証言で利上げを正当化する中、EUから公表された英離脱条約草案では、12月時点の合意内容が繰り返されるのみで、殆ど新たな材料はなく、英国側の要求は無視されたことから、1日にポンドは対ドルで、月中安値となる1.3712まで下落。特に、移行期間について、所与ではないと強調され、英国の楽観論をけん制する向きが強かった。その後、英議会で同草案を議論するも、英首相は到底合意できるものではないと応酬し、双方の溝が深いことが嫌気された。2日は英国側から、離脱後に目指す方針が示されたが、関税同盟の拒否、主要業界のEU専門機関オブザーバー資格(ECJの一定の役割を許容)、予算拠出の一部許容、金融パスポートの喪失等、現実的な路線が示された。さらに、英2月非製造業PMIが54.5と予想(53.3)を上回り、4カ月ぶりの高水準を記録し、サウジアラビアが戦闘機を英国から購入し、10年間で約650億ポンド規模の貿易・投資を拡大すると合意したことで、ポンドは買いに転じた。19日、ブレグジット後の移行期間を巡って英・EUが大筋合意したことから、一段と買われ、1.4066まで上昇。その後、英2月CPIが前年比2.7%の上昇に留まり、予想の2.8%を下回ったほか、2017年7月以来の低い伸びとなったことで、英利上げ期待が遠のき、1.3983に小緩むも、11月—1月の英賃金が前年比2.8%(予想: +2.6%)の上昇を示すと、実質賃金がプラスに転じたことから、高値を更新。さらに、英金融政策委員会の中で比較的ハト派と見なされていたブリハ委員が今後数年間で毎年1、2回の利上げが必要になると発言した他、2016年の英EU離脱国民投票において離脱派の団体が支出ルールに違反していたことが報道され、やり直しの可能性が浮上したことで、最終週に月中高値(1.4244)をつけた。

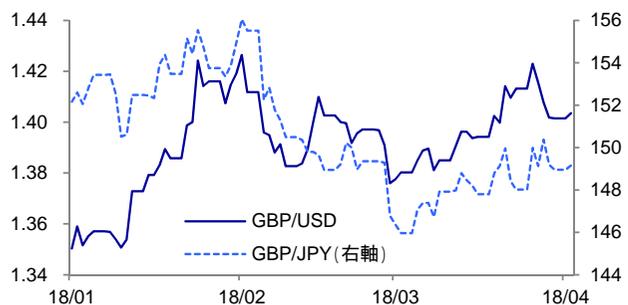
今月の見通し

4月はポンド高圧力が増しやすいというアノマリー(季節性)がある。ポンド・インデックスに注目すると、過去10年間では必ず4月に上昇しており、今年も例外ではないだろう。ブレグジットを巡ってはアイルランド国境問題が先送りされ、問題は山積しているが、EUサミットで移行期間が正式合意されたことで、ノー・ディールの道に進むリスクが低下し、楽観的ムードとなりやすい。また、離脱派の国民投票運動違反で、英EU離脱が撤回されるとの見方が浮上していることも、ポンドを浮揚させる要因となりえる。英国ではロシア人の元スパイ暗殺未遂事件に関連し、制裁や報復等で対決姿勢が強まったが、むしろ市場はポンド買いで反応している。対外強硬政策でメイ首相の求心力が回復すれば、政権基盤強化に繋がると見ている節がある。もはや、材料が何であつてもポンド買いに結び付ける強引な雰囲気なのだろうか。

英離脱交渉は、欧州議会が最終期限とする10月までに決着するには、通商交渉が早々に開始されるだろうが、これまで英国が主要項目ではほぼ全面的にEU案を飲み込んできた経緯を見ると、既に採択された指針のとおり、カナダ等の域外国と締結している自由貿易協定(FTA)を軸とする内容に落ち着くことが予想される。対EU交渉で余地が無い分、今後、英首相にとっては、国内調整が最大の関門となるだろう。スコットランドは言うまでも無く、ウェールズ主席大臣までも英EU離脱法案の受け入れを拒否している。北アイルランドでは民主統一党(DUP)党首が、離脱条約草案の同国取り扱いに違憲であると一蹴している中、閣外連立が打ち切れ、解散総選挙となるリスクも孕む。英ブックメーカーでは、2019年3月末の英離脱までに、英首相が交代する確率が58%で取引されている。

為替の動き

(資料)ブルームバーク



株価指数の動き

(資料)ブルームバーク



先月の注目イベント

(資料)ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/1	製造業PMI	2月	55.0	55.2	55.3
3/2	建設業PMI	2月	50.5	51.4	50.2
3/5	サービス業PMI	2月	53.3	54.5	53.0
3/9	鉱工業生産(前年比)	1月	1.9%	1.6%	0.0%
3/9	製造業生産(前年比)	1月	2.8%	2.7%	1.4%
3/20	消費者物価指数(前年比)	2月	2.8%	2.7%	3.0%
3/21	ILO失業率	11-1月	4.4%	4.3%	4.4%
3/22	小売売上高(含自動車/前年比)	2月	1.4%	1.5%	1.6%

豪ドル相場

予想レンジ: AUD/USD 0.7550 ~ 0.7850
AUD/JPY 79.00 ~ 83.50

アジア・オセアニア資金部 シドニー室 山口 美紀

先月の為替相場

3月の豪ドルは一時期初来安値となる0.7643を付けた。

1日、豪ドルは0.77半ばでスタート。豪10~12月民間新規設備投資は前期比0.2%減少と市場予想1%増加を大幅に下回り、豪ドルは0.77前半に下落。しかし、海外市場では、トランプ米大統領が鉄鋼とアルミニウムの輸入制限を発動する方針を表明したことで、リスクオフの動きから、安全資産の米債に買いが入り、米債利回り低下がすすむと、米ドル売り進行。豪ドルは0.77半ばに戻した。その後、豪ドルは0.77台での揉み合いが続いた。6日、豪準備銀行(RBA)理事会では、17会合連続で政策金利は据え置かれた。同日、米国の鉄鋼・アルミニウム輸入品関税案緩和観測や、トランプ米大統領の発言より、米朝関係緩和の観測が高まったことから、リスクオンとなり、リスク通貨の豪ドルは0.78半ばに上昇。豪10~12月GDPは前期比0.4%増加、前年比2.4%増加と、前回(前期比:+0.7%/前年比:+2.9%)から鈍化するも、前回分が上方修正されたことで相殺され、市場の反応は限定的。9日、米2月雇用統計の非農業部門雇用者数が前月比31.3万人増加と市場予想20.5万人増加を大幅に上回り、株高等リスク選好の動きが強まり、豪ドルは0.78台浮上。ティラーソン米国務長官更迭や、予想を大幅に下回る米2月小売売上高を受けたドル売りから、豪ドルは3月高値0.7917を付けた。

15日、米国家経済会議の次期委員長ラリー・クドロー氏の「トランプ米大統領が強いドルを支持」との発言を受けて、ドルが全面高。豪ドルは0.78台に反落。翌日も良好な米2月鉱工業生産指数や米3月ミシガン大学消費者信頼感指数を受けて、豪ドルは0.77台に続落。21日、FOMCを前に、豪ドルは3月安値0.76後半まで下落。しかし、注目のFOMCでは予想通り+25bpの利上げが実施されるも、FOMCメンバーの政策金利見通し(ドット・チャート)で年内の利上げ見込み回数が3回に維持されると、利上げペース加速を見込んでいた投資家がドル売りに動き、豪ドルは一気に0.77後半に急反発した。しかし、その動きは続かず、豪ドルはすぐに0.77前半に戻して、推移した。その後、米2017年10~12月期GDP確報値の上方修正や、米朝関係緩和観測から、ドル買いとなり、豪ドルは年初来安値0.7643まで下落した。

今月の見通し

4月の豪ドルは、0.76~0.78を中心とした揉み合いを予想する。米国の通貨・通商政策の行方に注目。

3月、トランプ米大統領は鉄鋼とアルミニウムの輸入品に対する追加関税、更に中国に対しては知的財産権侵害を理由とする600億ドルの追加関税を発表。また、1月にはムニューシン米財務長官はドル安誘導発言があり、米国の保護主義姿勢が強まっている。これに対して、中国は今のところ対抗策を明らかにしていないが、保有米国債の売却等での対抗措置観測が高まっている。米国、中国の今後の出方に注目が集まる。かかる中、4月の米為替政策報告書の内容にも留意したい。

また、金融政策に目を向けると、豪州では3日にRBA理事会、米国は次回5月1~2日にFOMCがある。前回のRBA声明文では「現行の緩和政策を維持することが、インフレ目標(2~3%)達成と失業率の低下を促す」と示されており、しばらく政策金利の維持が予想される。また、米国では先月予想通り+25bpの利上げが行われたが、ドット・チャートでは、年内利上げ回数は前回同様の3回に据え置かれており、次回利上げは早くても6月とみる。4月は、豪州、米国共に金融政策の変更無く、金融政策が与える豪ドルへの影響は限定的となる。

次に、テクニカル的には、2016年、2017年安値を結んだラインが0.76近辺に位置しており、このラインがサポートラインとして機能すると予想する。一方、200日長期移動平均線が0.78近辺に位置しており、ここがレジスタンスとなると考える。また、月足の一目均衡表を見ると、豪ドルは3か月連続の雲下限(0.7750近辺)を挟んだ動きになっており、引き続き、トレンドを見極めることが難しい状況である。したがって、4月の豪ドルは0.76~0.78を中心とした横ばいを予想する。

4月の豪州注目経済指標は、3日:RBA理事会、4日:住宅建設許可件数、小売売上高、5日:貿易収支、12日:住宅ローン承認件数、17日:RBA議事録、19日:雇用統計、24日:消費者物価指数、27日:生産者物価指数。

今月のつばやき(現地からの声)

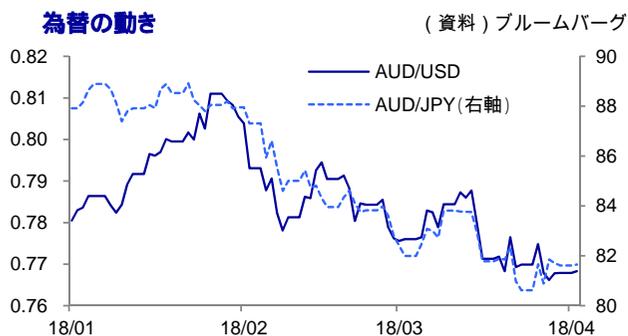
『当地の有名な本や小説』

学生時代、読書感想文が一番嫌いな夏休みの課題であった私は毎年親に手伝ってもらっていましたが(もはや親に書いてもらっていました)。そんな私が皆様に本や小説の感想を伝えることは嬉しいので、今回は本や小説のあらすじのみを紹介いたします。

1.The Power of One
BryceCourtenay作の小説。。アパートへイト体制下の南アフリカを舞台に、1人の少年がボクシングを通して人種の壁を越えて成長していく姿を描いたドラマです。ブライス氏は他にも数多くのヒット小説を生んでいます。

2.Possum Magic
MemFox作の絵本。主人公のポッサムを始め、コアラやカンガルーなどオーストラリアの動物がたくさん登場。主人公ポッサムがオーストラリア主要都市をまわりながら、パブロヴァやラミントンやベジマイトなど豪州の食べ物を食べながら、旅に出ます。

3.The Curly Pyjama Letters
漫画家、詩人であるMichaelLeunigの2人の主人公の一連の手紙のやり取りを通じて伝えられる愛の物語です。マイケル氏はオーストラリアの新聞の挿絵も描いています。



先月の注目イベント (資料)ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/1	民間設備投資	10-12月	1.0%	-0.2%	1.9%
3/5	住宅建設許可件数(前月比)	1月	5.0%	17.1%	-20.6%
3/6	小売売上高(前月比)	1月	0.4%	0.1%	-0.5%
3/6	RBAキャッシュレート		1.5%	1.5%	1.5%
3/7	GDP(前期比/前年比)	10-12月	0.5%/2.5%	0.4%/2.4%	0.7%/2.9%
3/8	貿易収支	1月	A\$160M	A\$1055M	-A\$1146M
3/13	住宅ローン承認件数(前月比)	1月	-1.0%	-1.1%	-2.3%
3/20	RBA議事録				
3/22	雇用者数変化	2月	20.0K	17.5K	12.5K
3/22	失業率	2月	5.5%	5.6%	5.5%

カナダドル相場

予想レンジ: USD/CAD 1.2630 ~ 1.3345
CAD/JPY 80.50 ~ 85.00

グローバルマーケティング業務部 カナダ室 那須 紘子

先月の為替相場

3月のUSD/CADは1.2857でオープン。

2日に発表されたカナダ第4四半期の国内総生産(GDP)は、年換算で+1.7%と予想の+2.0%を下回る結果となった。また第3四半期GDPは1.7%から1.5%へと下方修正され、2016年中盤から2017年半ばに見られた様な急成長が完全に終わりを迎えたことが伺える。今後のカナダ経済は、成長率が2%前後の一段と緩やかなペースになるとの予想が強まり、この日はカナダドルが売られUSD/CADは1.2916まで上昇した。

7日、カナダ中銀は市場の予想通り、政策金利の据え置き(1.25%)を決定。同時発表の声明文では、将来的な利上げの可能性は否定しなかったものの、NAFTA(北米自由貿易協定)再協議の行く末や米国の保護主義政策による影響から、今後のカナダ経済環境に対し更なる慎重姿勢を示し、全体的にハト派寄りの内容となった。そのことからこの日のカナダドルは売りが優勢となり、USD/CADは一時1.300台へと上昇。しかしその後、米トランプ政権が鉄鋼とアルミの輸入関税に関し、カナダとメキシコを例外とする発表したため、安堵感から買戻しが入りこの日は1.2912でクローズした。

9日発表の2月雇用統計で、カナダは主にフルタイムが3.93万人減少、予想の2.1万人増を下回り、結果は1.54万人増となった。失業率は前月より0.1%減少し5.8%であったがこれは求職者が減少したことが原因。一方で米国は予想を大幅に上回る31.3万人の増加が確認されたが、注目の平均時給が前月比、前年比共に予想を下回り1月から減速が見られた。このことから発表直後USDドルが売られこの日USD/CADは1.2812まで下落した。

3月中盤は、13日のボロズ総裁のハト派トーンの演説をはじめ、15、16日の軟調なカナダの住宅データ、製造業売上高を受けてカナダドル売りが進み、週明けの19日にUSD/CADは1.3125と昨年6月以来の安値圏へと突入した。しかしUSD/CADは1.30台を維持できず、21日に米政権がNAFTA再交渉においてカナダ・メキシコで製造された車両に関し要求していた条件を取り下げたとの報道を受け、1.2891まで下落した。続けて23日発表の2月カナダ消費者物価指数(CPI)が予想を大きく上回る結果であったためにカナダドルが急伸、1.2824までカナダドル高が進んだ。

28日現在は、米国の第4四半期GDP確報値が前年比+2.9%と予想を大きく上回ったためにUSDドル買いが優勢、1.290台前半で推移している。

今月の見通し

3月はカナダの経済成長に減速感は見られるものの、インフレの上昇や継続した原油高が確認された。また後半はNAFTA再交渉への不透明感が少し解消され、29日の月次GDPの結果次第では利上げ観測が高まり若干カナダドル高に動く可能性も。

21日、米国政府は今回のNAFTA再協議において大きな争点となっていたカナダとメキシコで製造された自動車の米国への輸出に関し、米国製の部材使用率を50%とする要求を撤回。このことから、今まで不安材料となっていたNAFTA再交渉の妥結へ期待が強まり、カナダドルを押し上げる大きな材料となった。米国が5月1日までのNAFTA協議の妥結を目指すなか、4月からワシントンD.Cにて第8回の話し合いが開始される。他にカナダドルを下支えする要因としては引き続き1バレル60~65ドルで安定した動きをしている原油価格(WTI)が挙げられる。

29日に発表される1月国内総生産(GDP)は0.10%と前月比で横ばいの予想がされているが、もしも予想を上回る好調な結果であれば利上げ観測が高まりカナダドルの上昇圧力になることも考えられる。

しかし米中貿易戦争への懸念や、今後、米国の保護主義政策がどのように世界経済に影響を及ぼすのか不安が残る状態で、市場はリスク回避の方向に動きやすく、米国発のリスクには引き続き注意が必要。

今月のつづき(現地からの声)

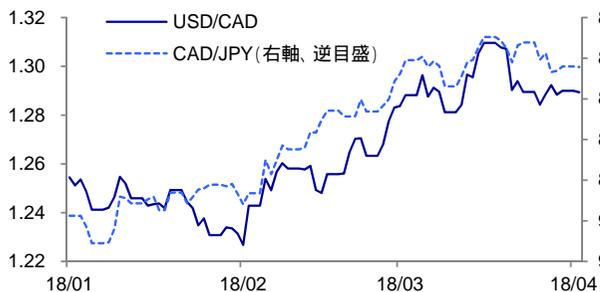
『当地の有名な本や小説』

世界的に有名なカナダの小説と言えば、やはりL・M・モンゴメリの『赤毛のアン』でしょうか。日本ではアニメ化されたり、1985年に製作された映画版が有名だったりと、原作の小説よりもそちらから赤毛のアンを知ったと言う人の方が多いかもしれません。かくいう私も小さい時に映画でアン の存在を知りました。映画を先に見てあらすじを知ってしまうと、あらためて原作を読もうという気持ちがなかなか沸かず、実は現在に至るまで原作は読んでいません。しかしモンゴメリが実際に過ごし、愛したプリンスエドワード島の美しい自然のこ細かな描写や、鮮やかで、時には少し辛口な人間描写などは、やはり原作を読まないといわうことが出来ません。今年は出版から110年ですし、昨年には新しいテレビシリーズもスタートしたので、これを機に今年こそ頑張ってみようかなと思っています。世界的には有名なこの本、実は現地の人に聞いてみると「知ってるけど読んでることがない」との回答が大半でした(笑)。

赤毛のアンに続いて有名なカナダの本といえば、一時期カナダの学校で課題図書となっていて、最近再び話題になってきたマーガレット・アトウッドによる『侍女の物語(ハンドメイド・テイルズ)』があります。作品の舞台は近未来ディストピア社会で、原理主義勢力に支配され、全体主義的神政国家となったかつてのアメリカで侍女として生きる女性の人生を描いています。トランプ氏が大統領に就任して以来、ジョージ・オーウェルの『1984年』やこの『侍女の物語』をはじめとしたディストピア小説の人气が急上昇。最近の現状を見て「このまま状況が悪化すれば本の世界の様になってもおかしくない」と思える怖さに対する好奇心やスリルが読者の心を掻き立てるのかもしれない。

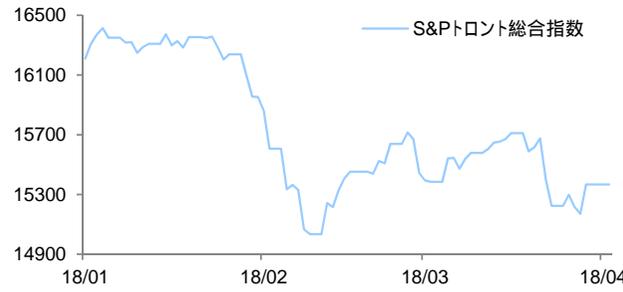
為替の動き

(資料)ブルームバーグ



株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/2	GDP(前月比)	12月	0.10%	0.10%	0.40%
3/2	GDP 四半期	4Q	2.00%	1.70%	1.70%
3/9	雇用ネット変化率	2月	2万人	1.54万人	-8.8万人
3/9	失業率	2月	5.9%	5.8%	5.9%
3/16	製造業売上高(前月比)	1月	-0.9%	-1.0%	-0.3%
3/20	卸売上高	1月	0.00%	0.10%	-0.50%
3/23	小売売上高(前月比)	1月	1.10%	0.30%	-0.80%
3/23	消費者物価指数(前月比)	2月	0.40%	0.60%	0.70%
3/23	消費者物価指数コア(前年比)	2月	1.9%	2.10%	1.80%
3/29	GDP(前月比)	1月	0.10%	-0.10%	0.10%

韓国ウォン相場

予想レンジ:	USD/KRW	1050	~	1100	(注)100韓国ウォンあたりの対円レート
	KRW/JPY	9.50	~	10.20	
	JPY/KRW	9.80	~	10.53	

ソウル資金室 下山 泰典

先月の為替相場

先月のドル/ウォン相場は、結果的にはもみあい推移となった。月初の南北首脳会談および米朝首脳会談の開催を受けたリスクセンチメントの改善、月末近くのハト派的なFOMCや米中貿易戦争懸念などが先月のトピックだったと言えよう。

月初は1080.50でオープンし、この日のうちに1083.80の今月高値をつける。その後は米通商政策関連で上下したものの、6日海外時間に南北首脳会談の開催が報じられ、さらに9日朝には米朝首脳会談の開催まで報じられたことウォン買いが優勢に。

翌週はティラーソン米務長官の解任など米政局でのニュースを市場がネガティブと捉え一時的にウォン売り/ドル買いに展じる局面もあったが、上下動の中で14日には今月安値(ウォンの高値)となる1062.70まで下落した。

ただ、ここからは水準的な警戒感もあり、徐々に反発。22日には、前日海外時間のFOMCのハト派的な結果を受けてドル売りが進行する局面もあったが、22日海外時間のトランプ大統領による対中国や鉄鋼等に対する関税強化の大統領令署名の報道を受けて急速にリスクセンチメントが悪化。米株式市場が大きく崩れる中でNDF市場でウォン売りとなり、翌23日のオンショア市場も大きくウォン安の水準でスタート。それでも、米中間のテンション緩和を示唆するニュースなどが意識されたり、四半期末の実需のウォン買いなどに支えられ、ドル/ウォンは低下。1063.50でクローズ。

今月の見通し

今月のドル/ウォン相場はやや上昇する展開を予想する。当面のポイントはリスクセンチメントの行方と予想。足元は大きな材料がやや多すぎる印象であり、動向・結果次第で市場はボラタイルになりうる相場といえよう。その材料としては、南北首脳会談や米朝首脳会談などの北朝鮮問題関連と、米中貿易戦争とも言われる米通商政策問題とが大きいだろう。

まず前者については、今月27日に南北首脳会談が、そして来月中に米朝首脳会談が予定されている。米朝首脳会談が本丸であろうが、南北首脳会談での北朝鮮のトーンは注目に値する。また、各種報じられるように、南北や米朝は様々な接触を持っているようであり、その内容が漏れ伝わることとなれば市場は反応しそうだ。来月の米朝首脳会談に向けて、北朝鮮側はおそらく融和的なムードを演出すると思われる、今月北朝鮮関連のニュースが出た際にはややウォン買いとなるだろう(但し、距離のある米国だけが得をする着地点を見出され、日韓にとってはネガティブな結果となりそうとなればウォン売りは不可避だろう)。

続いて、米通商政策。世界中で株式市場の混乱をもたらさうる材料であり、注意しておく必要がある。足元までの株式市場は大まかに見れば世界的に好調だったといえよう。それはすなわちそれだけ投機筋に株のロングポジションが積み上がっているのだと言えようが、米中の通商政策で高関税付加の応酬となれば、先月見たように株式市場が大きく崩れうる。その流れはリスクオフの流れと認識され、ウォン売りを誘発するだろう。

上記、どちらの報道が強く意識されるか、またその内容によって市場は変わりうると思うが、北朝鮮問題についてはまだ本丸の米朝首脳会談が来月である以上、やはり通商政策のネガティブな材料のほうが強いだろうか。

なお、今月は12日にBOKもある。ただ、先月のFOMCが予想外にハト派的であり、BOKとしては追従を意識する必要はなくなっている印象。韓国の物価動向自体やや低調であり、かつウォンの水準はややウォン高といえるところ、FOMCまでハト派的に寄ってくれば基本的にはBOKも利上げを急ぐ理由はなさそう。

上記を勘案、今月のドル/ウォン相場はやや上昇する展開を予想する。

今月のつばやき(現地からの声)

『当地の有名な本や小説』

あまり本を読まない私であり、有名な本について語ることはやや難しいのだが、本自体を巡る話をしてみたい。

何年も前だが、日本で生活をしていた時には通勤の電車などでポケットサイズの単行本を片手に夢中で読んでいた人々をよく見かけたものである。

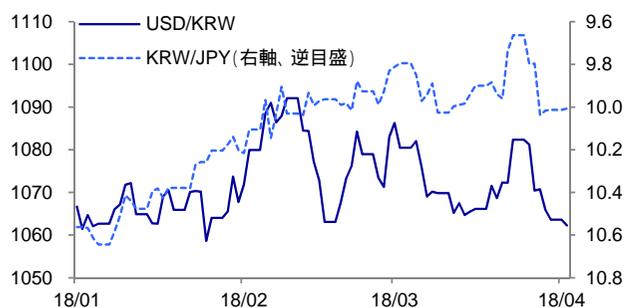
現在では、日本でもそうだろうが、韓国でも電子化が進んでいる。紙の本ではなく、タブレットやスマホなどで新聞や本・ニュースを読んでおり、通勤通学の電車などで紙を広げて読む人はめったに見えない。また小説やコミックもネット上で電子版が出ており、もはやそちらが主流だ。

昔は有名な著者の新作は書店に大々的にポスターが張られその広告だけで書店の前に行列ができたのだが、いまや電子版やネット予約があるため本屋に行列をつくるどころか、足を運ぶ必要すらないため、どうしても一抹の寂しさを感じてしまう。

ただ、やはり良いところはある。最近引越しをした自分としては引越しの際にはとつてもラクだった(笑) (李サンラク)

為替の動き

(資料)ブルームバーグ



株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



先月の注目イベント

(資料)ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/1	貿易収支	2月	\$2391M	\$3311M	\$3721M
3/2	鉱工業生産(前年比)	1月	1.7%	4.6%	-4.6%
3/6	経常収支	1月		\$2680.4M	\$4092.3M
3/6	CPI(前年比)	2月	1.2%	1.4%	1.0%
3/14	失業率	2月	3.7%	3.6%	3.6%
3/28	GDP(前年比)	4Q	3.0%	2.8%	3.0%

台湾ドル相場

予想レンジ: USD/TWD 28.90 ~ 29.40
TWD/JPY 3.55 ~ 3.70

台北資金室 三浦 勇二

先月の為替相場

3月のドル/台湾ドル相場は、ドル安台湾ドル高。

月初のドル/台湾ドルは、パウエルFRB議長の議会証言での「昨年12月の会合以降、景気見通しの力強さは増してきた」といった発言がタカ派的と受け止められ、ドルが上昇したことから、29.329と、2月末の29.230に比べ、ドル高台湾ドル安水準でオープン。しかしながら、その後はトランプ米大統領が鉄鋼、アルミニウムへの高率輸入関税の導入を表明したことから、米中貿易戦争への懸念が広がりドルが軟化すると、ドル/台湾ドルも上値が重くなり、29.2台前半へと下落。

月半ばにかけては、コーン米国家経済会議議長の辞任報道などを受け、米国の保護主義姿勢が強まる懸念がドルの上値を押さえられたことに加え、台湾の株価が堅調に推移し、海外資金の流入が増加したことなどから、29.2を割る展開となった。

月後半に入ると、3/20-21のFOMCを控えて様子見姿勢が強まり、29.1台後半を中心とするレンジ内でのみ合いが続いた。FOMCでは、市場の予想通り、フェデラルファンド金利誘導目標が25bp引き上げられたが、2018年の利上げ見通しは3回で維持され、Longer runは2.75%から2.875%への引き上げに留まった。FOMC後はドルが下落し、翌3/22の台湾市場では、ドル売り台湾ドル買いが優勢となり、一時3月の安値となる29.068まで下落した。

その後、トランプ大統領が、中国が米国の知的財産権を侵害しているとして、600億ドル相当の中国製品に25%の追加関税を課すことを柱とする制裁措置を表明すると、再び米中貿易戦争を懸念した株安から、株式市場から海外資金が流出し、FOMC後の下げを消す展開となり、ドル台湾ドルは29.1を回復。しかしながら、月末にかけては輸出企業のドル売りフローに押されてドル/台湾ドルは上値重い推移となった。

今月の見通し

4月のドル/台湾ドル相場は、台湾ドル高地合いの継続を見込む。

3月に発表された経済指標をみると、2月の輸出額が前年比-1.20%と、2016年9月以来のマイナスとなった。2月は春節の影響で営業日数が少なかったことに加え、前年は春節が1月であったことから、比較対象となる数値が大きかったことも影響している。一方、1-2月累計の輸出額は前年を大きく上回っていることもあり、輸出の好調さは続いているものとみられる。2月貿易収支は29.2億ドルの黒字と、前月の24.2億ドルから黒字額が拡大した。また、2月の消費者物価指数(CPI)は、前年比+2.19%と、前月の同+0.89%から伸びが加速。春節の影響で、旅行費用が大きく上昇したほか、石油製品価格の値上がりも影響した。なお、3/22に台湾中銀は四半期に一度の金融政策決定会合を開催。楊総裁就任後、初となる会合であったため注目されたが、市場予想通り、政策金利である公定歩合は1.375%で現状維持され、相場への影響は限定的であった。

4月は引き続き、米中の通商政策が注目される。

3月はトランプ大統領の鉄鋼、アルミニウムへの高率関税導入方針の表明をきっかけに、米中貿易戦争への懸念が強まる形となった。今後もこうした状況はしばらく続くと思われるが、ムニューシン米財務長官が「貿易戦争を恐れはしないが、それが目的ではない」と発言していることや、米国の保護主義的な措置に関しては適用除外国が増えていくことも想定されることから、世界景気を下押しするまでは問題が深刻化しないとみられる。

一方、中国が対決姿勢を鮮明にし、貿易戦争激化が意識される展開となれば、世界的な株安が進むとともに、台湾株からの海外資金流出圧力も強まり、ドル/台湾ドルを下支えするか。

今月のつばやき(現地からの声)

『当地の有名な本や小説』

台北では、2018年3月に「ミシュランガイド台北」がはじめて発行され、話題となっております。3/14には、ガイドの発売を前に、星を獲得した20のお店が発表されております。

三つ星を獲得したのは、広東料理「頤宮」の1店。二つ星は、日本料理「祥雲龍吟」と、中華料理「請客樓」の2店。一つ星は、台湾料理をはじめ、フレンチ、ステーキ、寿司など、さまざまなジャンルのお店17店が獲得しております。

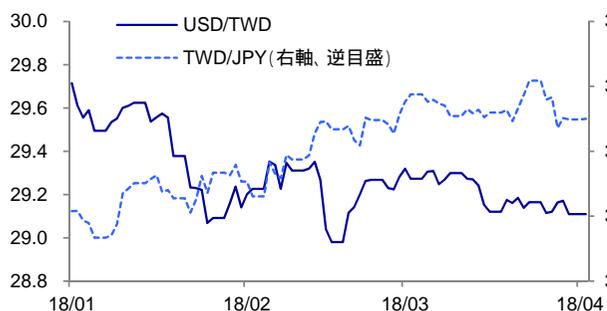
なお、一つ星には、日本料理のお店3店が含まれており、星を獲得した20店のうち、4分の1は日本料理となっております。

また、台北のミシュランガイドで特徴的なのが、台湾観光のハイライトの一つである「夜市」の屋台で食べる「小吃」の紹介も行われている点であります。

ミシュランガイドは、上海やソウルなど、アジアの主要都市でもすでに発行済みということもあり、台北でも待望論が以前から高まっております。そのため、発表会には400名近い報道陣が詰め掛け、注目を集めたようです。

為替の動き

(資料)ブルームバーグ



株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/5	外貨準備高	2月	-	456.72B	455.72B
3/7	CPI(前年比)	2月	2.00%	2.19%	0.89%
3/7	輸出(前年比)	2月	3.70%	-1.20%	15.30%
3/7	輸入(前年比)	2月	4.90%	0.90%	23.30%
3/7	貿易収支	2月	3.70B	2.92B	2.42B
3/20	輸出受注(前年比)	2月	3.50%	-3.80%	19.70%
3/22	失業率	2月	3.70%	3.70%	3.68%
3/22	政策金利	Q1	1.375%	1.375%	1.375%
3/23	鉱工業生産(前年比)	2月	1.70%	-1.93%	10.86%

香港ドル相場

予想レンジ: USD/HKD 7.8300 ~ 7.8500
HKD/JPY 13.10 ~ 13.80

香港資金部 Ken Cheung

先月の為替相場

【3月の香港ドル直物相場】

ドル/香港ドルは、FOMCにおけるFRBの政策金利引き上げに伴い米金利と香港ドル金利の金利差が拡大する中で、2005年の米ドルベッグ制導入(1米ドル=7.75~7.85香港ドル間での変動を許容)以来初めてとなる7.8494水準まで香港ドル安が進行する展開となった。こうした中、香港金融管理局(HKMA)は米ドルベッグ制の上限である7.85を超えさせないために、為替基金短期証券の追加発行を見送ることを示唆した。斯かる中、市場は先々の香港ドル市場の流動性逼迫を懸念しつつあり、ドル/香港ドルフォワードの1年物は▲600ポイントから▲500ポイントに上昇する展開となった。

【3月の香港ドル金利市場】

ドル/香港ドルが7.85水準近傍まで香港ドル安が進行し、先々の香港ドル市場の流動性逼迫の懸念から、香港のHIBOR1か月物及び3か月物は1.0%付近及び1.19%付近まで上昇する展開となった。一方、米FOMCにおけるFRBの利上げ以降、香港域内の金融機関は金利水準の引き上げに躍起になっておらず、米金利と香港ドル金利の金利差は引き続き拡大した状況が継続している。インターバンク市場の流動性を図る指標であるHKMAの当座預金残高は、約1800億香港ドルと前月とほぼ同水準で潤沢に推移した。

【3月の香港株式市場】

ハンセン指数は、米中貿易戦争への懸念が高まる中で、30,000水準まで下落する流れとなった。中国・香港株式市場の相互取引制度を通じた取引が足許細ぼっている中、香港と米国における金利差が拡大基調にあり、香港域内からの資金流出も警戒される状況となっている。

今月の見通し

【4月の香港ドル直物相場】

ドル/香港ドルの取引レンジは、7.830から7.850を想定する。足許潤沢な香港ドル市場の流動性状況から、香港域内の金利が米金利の上昇に追いついておらず、香港と米国における金利差の拡大から、米ドルベッグ制導入以降初めてとなる7.85水準近辺まで香港ドル安が進行する展開となった。一方で、同水準を超える程の勢いには至らず一旦落ち着きを見せているものの、FRBによる緩やかな利上げ見通しに大きな変化はない中で、米金利と香港ドル金利の金利差は引き続き拡大しており、米ドル買い香港ドル売りフローは根強く残存し再び7.85水準を試す可能性も想定される。HKMAは香港ドル売り圧力が後退するまでは、為替基金短期証券の追加発行を実施しないと示唆しているが、追加措置がなされれば香港ドル高圧力が急速に高まる展開も。米中貿易戦争への懸念に引き続き注目が集まる中、動向には要注意したい。

【4月の香港ドル金利市場】

香港ドル安基調が継続する中、香港ドル市場における先々の流動性逼迫懸念の織り込みから、短期ゾーンを中心に徐々に香港ドル金利は上昇すると見込む。加えて、米ドル金利との乖離幅が相応な水準に達しており、FRBによる緩やかな利上げが継続される見込みの中で、中長期ゾーンの香港ドル金利は徐々に米ドル金利に追従する展開を想定する。

今月のつばやき(現地からの声)

『当地の有名な本や小説』

香港で最も有名な小説家と言えば、「金庸」だろう。

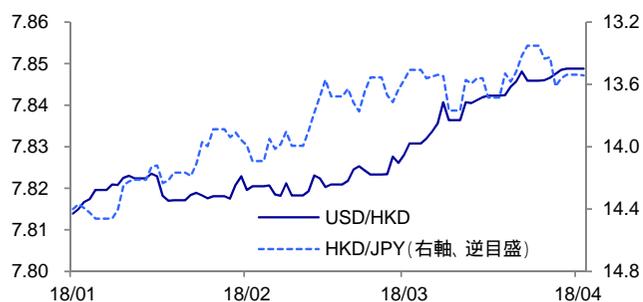
代表作に、武俠小説(武俠小説(ぶきょうしゅうせつ))とは、中国文学での大衆小説の一ジャンルで、武術に長け、義理を重んじる人々を主人公とした小説の総称)を書き上げた。

文学的な表現と巧みな展開の物語で、中華権においては爆発的な人気となっており、香港や中国本土のみならず、昨今では台湾や東南アジア各国でも広く読まれている模様。

加えて、作品の多くは映画やドラマ、漫画、ゲームなどに代替されており、中華圏における広範な娯楽文化の一翼を担っているといっても過言ではない。

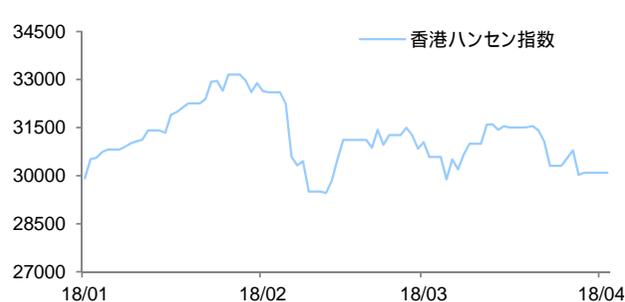
為替の動き

(資料)ブルームバーグ



株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



先月の注目イベント

(資料)ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/2	小売売上高(価格、前年比)	1月	5.20%	4.10%	5.80%
3/2	小売売上高(数量、前年比)	1月	4.10%	2.20%	4.30%
3/5	日経香港PMI	2月	-	51.7	51.1
3/7	外貨準備高	2月	-	\$443.5b	\$441.5b
3/13	鉱工業生産(前年比)	4Q	-	0.60%	0.30%
3/19	失業率(季調済)	2月	2.90%	2.90%	2.90%
3/20	CPIコンポジット(前年比)	2月	2.20%	3.10%	1.70%
3/27	輸出(前年比)	2月	7.00%	1.70%	18.10%
3/27	輸入(前年比)	2月	2.30%	-3.20%	23.80%
3/27	貿易収支(HKD)	2月	-40.0b	-42.7b	-31.9b

中国人民元相場

予想レンジ: USD/CNY 6.2000 ~ 6.6000
 CNY/JPY 15.61 ~ 17.74
 100JPY/CNY 5.6400 ~ 6.4100

みずほ銀行(中国)有限公司 中国為替資金部 馬場 一樹

先月の為替相場

【為替相場】

3月のドル/人民元相場は、暫く横ばいの動きが続いたものの、月末週に入り大幅に元高が進行。海外市場では米国による鉄鋼・アルミへの関税賦課報道を受けた貿易摩擦懸念の高まりを背景にリスクオフの地合いが強まる中、ドル人民元は第13期全国人民代表大会(全人代)を前に6.34近辺で推移。5日には全人代が開幕。GDP成長率目標が前年と変わらず前年比+6.5%前後と示された一方、昨年示されていた「可能であればそれ以上」との文言が削除された。各政府人事についても合わせて発表されたが、今回発表された内容が総じて予想の範囲内だったことを受け、ドル人民元相場への影響は限定的だった。その後もFOMC等イベントを控え海外市場でのドルの動きも限定的となる中、ドル人民元は概ね6.32から6.34の水準とほぼ横ばいの動きが継続。21日のFOMCでは予想通り利上げが実施されたことを受けてPBOCも短期金利を5bp引き上げたが、事前に予想されていたこともあり特段インパクトは無かった。22日にはトランプ大統領が中国製品への関税賦課を命じる大統領令に署名し、中国側も反発して相互関税計画を発表する等貿易戦争への懸念が高まり、ドル安円高が進んでいたが、ドル人民元については引き続き6.32近辺で横ばいの動きとなった。月末週に入ると、ドル人民元相場はドル売りのフローをきっかけに急落。6.30の水準を割れると更に人民元高の動きが加速し、一時6.25割れと2015年8月以来の元高水準までドル安人民元高が進行した。月末にかけては買戻しの動きが強まり、6.28台まで戻して推移した。

【金利相場】

人民元金利は、月初、月内のタームについては中資系大手行による資金放出により市場流動性が緩和的となり、金利は低下。しかし、3月末越えとなる1ヶ月超のターム物は旺盛な資金需要により金利上昇となった。その後、公開市場操作での資金供給とMLFの増額ロールにより市場流動性が潤沢に保たれる中、月内満期のターム物金利は安定的に推移。一方、3月末越えとなる1ヶ月物のターム物金利は資金需要が強く、金利上昇が継続した。月後半は3月末越えとなるターム物金利上昇にも一服感が出始め、中資系大手行による資金放出も見られたことから、カーブ全体で小幅に金利低下となった。21日の米利上げを受け、PBOCもリバースレポによる資金供給においてオペ金利を5bp引き上げたが、資金市場への影響は限定的だった。

今月の見通し

【為替相場】

4月のドル/人民元相場は、引き続き貿易戦争懸念の高まり等、海外市場動向を注視。先日の全人代では昨年同様の成長率目標の設定や、金融引き締め政策の継続など特段大きな変更は見られず、4月に関しても人民元要因での動きは想定しづらい。一方で、海外市場では貿易戦争関連のニュースで相場が上下する展開が続いており、ドル人民元も海外のドルの動きに左右されやすいことから米中間の通商政策がどこで終着するかを追っていく必要がある。17日には1~3月期の中国GDPが発表される。足元の中国の経済環境が底堅い中、2018年の成長目標+6.5%に対して現在どの位置にいるのかが示される。中期的には、安定的な水準を維持しながらも、金融引き締め政策による経済成長鈍化懸念から徐々に人民元安方向に進むと予想。

【金利市場】

足元で市場流動性が維持される中、大きな金利変動は見込みにくい状況。但し、当局による金融監督強化の動きやレバレッジ解消を企図した規制強化による中期的な金利上昇圧力は高まりやすく、注意が必要。

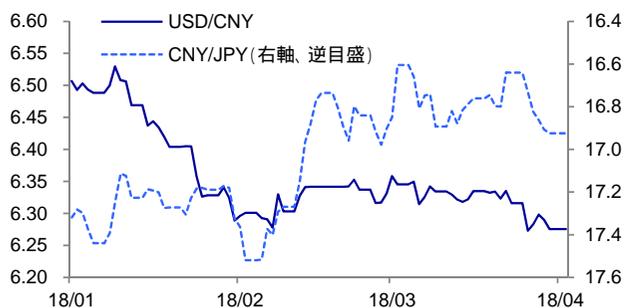
今月のつばやき(現地からの声)

『当地の有名な本や小説』

中国の有名な本と言えば、誰もが思い描くのが「三国志演義」や「水滸伝」、「西遊記」あたりかと思いますが、現代では中国SFも有名だそう。今回紹介するのは、「三体」という小説。システムエンジニアの方が書いた長編SF小説で、著者は劉慈欣。SF、ファンタジー界のノーベル賞と称される2015年のヒューゴー賞を受賞しております。「三体」は天体力学でいう三体問題のことで、この小説は3つの恒星系で生まれた三体星人が作り上げた、冷酷非情な恐るべき先進文明が地球侵略を進めるという設定となっています。中身はたくさんの物理学的知識が含まれているためとても難しく、さらに日本語版は出ていないので中国語か英語のみとなりますが、あのオバマ元大統領も絶賛したことあり、非常に世間的にも評価の高い作品となっております。時間があればいつかは私も読んでみたいと思います。

為替の動き

(資料)ブルームバーグ



株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/8	貿易収支(RMB建)	2月	-68.9B	224.9B	135.8B
3/8	輸出(RMB建)(前年比)	2月	7.4%	36.2%	6.0%
3/8	輸入(RMB建)(前年比)	2月	1.2%	-0.2%	30.2%
3/9	CPI(前年比)	2月	2.5%	2.9%	1.5%
3/9	PPI(前年比)	2月	3.8%	3.7%	4.3%

(資料)ブルームバーグ

シンガポールドル相場

予想レンジ: USD/SGD 1.2950 ~ 1.3200
SGD/JPY 79.50 ~ 81.50

アジア・オセアニア資金部 鈴木 教子

先月の為替相場

3月のシンガポールドル(SGD)相場は、米国発の材料で上下したが、方向感にははっきりせず、結果的には持ち合いとなった。

月初は、パウエル議長のタカ派的な議会証言をきっかけとしたドル買いSGD売りの流れに沿って、1日に1.32台後半を付けたが、結果的にはこれが3月のSGD安値となる。同夜、トランプ米大統領が鉄鋼・アルミに輸入関税を課す方針を発表するとドルが全面安となり、2日は1.31台後半までSGD高となった。

翌週は前半がSGD高で、後半はSGD安の展開。7日にトランプ大統領の経済顧問であるコーン米国家経済会議委員長辞任の報を受けてドル売りが加速すると、SGDは1.31台前半まで買い進まれたが、その後は米2月雇用統計発表を控えたポジション調整からややSGDが反落。9日発表の米雇用統計は非農業部門雇用者数が1年7か月ぶりの大幅増加となった一方で、平均時給上昇率が減速したため、ドル買いは限定的となり、SGDは1.31台後半で越週した。

翌週も週前半はSGD高の流れとなった。13日にはティラーソン米国務長官が解任され、相次ぐトランプ政権のブレーンの辞任を受けた不安感からドル売りが加速し、14日には1.30台後半までSGD高が進んだが、その水準では利食いも相応に出て、週後半はSGDが1.31台後半まで反落した。16日に発表された米2月鉱工業生産が統計開始以来の高水準を記録したのをはじめ、米経済指標が軒並み予想を上回ったことも、SGD売り材料となった。

19日の週は、週半ばにFOMCを控えて様子見気分が強く、週前半は1.31台後半で小動きとなった。FOMCはメンバーによる金利見通しで、2018年の利上げが年3回に据え置かれたため、年4回に加速すると見込んでいた参加者の失望売りでドルが反落し、SGDも1.31台前半まで強含んだ。22日はトランプ大統領が中国による知的財産権の侵害を理由に対中貿易制裁を発動するとの報道を受けて、貿易摩擦激化懸念からドルは対主要通貨で下落したが、同時に米国株が急落し、対新興国通貨ではリスク回避の動きが広がったことから、SGDは1.31台後半へ小幅安となった。23日はST指数を含む世界株式市場が軒並み急落したが、ドルは対主要通貨で続落したため、SGDはドル安の流れとリスク回避の両方の影響を受けて方向感が定まらず、1.31台でレンジ取引となった。

翌週は、株式市場にやや落ち着きが見られたことから、再び1.30台後半までSGDが強含み推移となっている。

今月の見通し

4月のシンガポールドル(SGD)相場は、MAS通貨政策発表を睨みながらSGD堅調地合いが継続か。

MASによる半期に一度の通貨政策見直しが最大の焦点。MASは2016年4月にSGD名目実効レート(NEER)ベースでのSGD高誘導を停止し、NEERをSGD高、SGD安いずれの方向にも誘導しない中立スタンスに移行した。米国が利上げ局面に入っていること、シンガポールのインフレ率が緩やかな上昇基調を回復して来たことから、今回の見直しでSGD高誘導を復活するとの見方が広がっている。更に2月下旬に発表された2018年度の予算案は、歳出拡大により基礎収支が赤字となったため、財政政策は財政健全化より景気刺激を優先、通貨政策は引き締めポリシーミックスでバランスをとるのではとの思惑が強まった。

これを背景にSGDはMASの政策発表が予定されている第2週にかけて強含み、今年1月につけた3年超ぶりのSGD高値を試しに行く展開となりそうだ。しかし、1.30の心理的大台を割り込んでSGD高が進むためには全般的なドル先安観が定着する必要があり、現状では材料不足かもしれない。MASのSGD高誘導への移行を織り込む形でSGD買いが先行すると、発表後は利食いでのSGDが反落する可能性がある。

その他の材料としては、4月第2週頃に発表予定のシンガポール1~3月期GDP速報値、26日のECB政策理事会が目玉と見られる。

今月のつばやき(現地からの声)

『当地の有名な本や小説』

シンガポールは1965年8月9日にマレーシアより独立してできた国のため、建国52年とまだ歴史の浅い国。民族も中華系(75%)・マレー系(15%)・インド系(10%)と多民族。そのために、日本のような独自の強い古典文学や近代文学があまり見られず、原則的に近代文学のみ。そこで現地職員にヒアリングをかけたところ、「10 Must-read Singaporean Book」というリンクをもらいました…が…何一つわからず…。チームの同僚に「あー、それそれ」的なものは無いのかと尋ねたところ、シンガポールは国際色豊かなため、学校でもプライベートでも欧米の書物を読むことが多いとの返答でした。

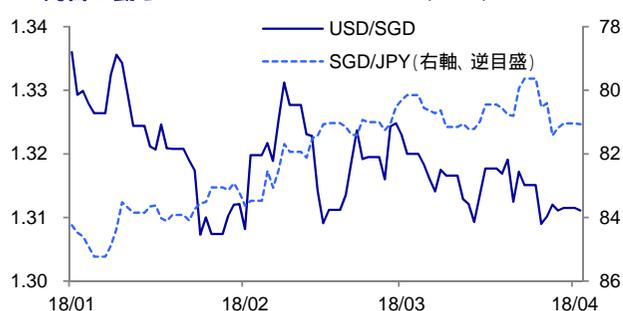
しかしながら悔しいので、頭をひねって考えてみると、「あーシンガポールの本だなあ」と思うものがありました!!!「リー・クワン・ユー」、リー・クワン・ユー元首相の回顧伝と共にシンガポールの歩みが著された本。ご逝去後に、本屋の店頭に山積みされており、シンガポリアンが相当購入していたのが印象的でした(とりば)。

(ご参考:「10 Must-read Singaporean Book」)

1. Emily of Emerald Hill by Stella Kon
2. The Teenage Textbook by Adrian Tan
3. Mammon Inc. by Hwee Hwee Tan
4. The Bondmaid by Catherine Lim
5. A Different Sky by Meira Chand
6. Cooling Off Day by Alfian Sa'at
7. Auntie Lee's Delights by Ovidia Yu
8. Tilting Our Plates to Catch the Light by Cyril Wong
9. Scattered Vertebrae by Jerrold Yam
10. Ministry of Moral Panic by Amanda Lee Koe

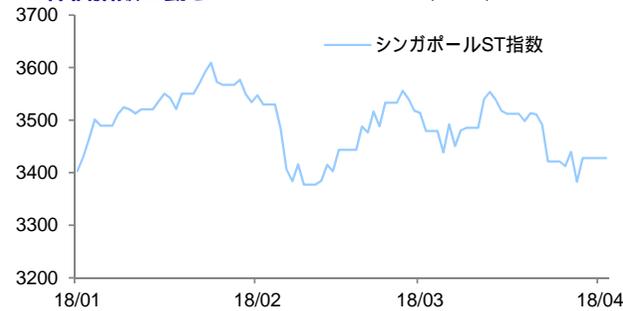
為替の動き

(資料)ブルームバーグ



株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



先月の注目イベント

(資料)ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/2	購買部景気指数	2月	53.1	52.7	53.1
3/2	電子産業指数	2月	-	52.1	52.9
3/12	小売売上高(前年比)	1月	2.2%	-8.4%	6.3%
3/16	非石油輸出(前年比)	2月	4.8%	-5.9%	12.9%
3/23	CPI(前年比)	2月	0.4%	0.5%	0.0%
3/26	鉱工業生産(前年比)	2月	4.2%	8.9%	16.9%

タイパーツ相場

予想レンジ: USD/THB 30.40 ~ 32.10
THB/JPY 3.35 ~ 3.45

バンコック資金室 関 浩士

先月の為替相場

●貿易戦争懸念の高まりにドル売り優勢

1日のドルパーツは31.60パーツで取引開始したが、NY時間にトランプ米大統領が「鉄鋼に25%、アルミに10%の輸入関税を課す」との発言に貿易戦争の懸念が強まるとドルパーツは31.49パーツまで下落。発表された2月消費者物価指数(CPI)が市場予想を大幅に下回ると、一時31.50パーツまで反発したものの、その後は売り圧力に押しされ31.41パーツまで下落した。6日には、「輸入関税実施の場合には米国家経済会議のコーン委員長が辞任する」との報道に、ドル売りが継続し31.27パーツまで下落。8日のECB政策理事会では予想通り政策金利は据置かれたが、声明文から「必要に応じQEの規模拡大」との文言が削除されたことを受けてテーパリング観測が高まった。翌9日の米2月雇用統計では、非農業部門雇用者数が前月比+31.3万人増と予想を大幅に上回ったものの、失業率、平均賃金の上昇率が市場予想を下回ったことが意識され、ドルが売られる展開となり、31.30パーツまで下落。14日はトランプ政権のティラーソン米国務長官が解任され、さらに国務次官も解任されるとの発表もあり、米国の貿易政策に対する不透明感が再び強まるとドルパーツは月間安値となる31.09パーツまで下落。

翌15日にはタイ中銀のウィラタイ総裁が、「激しい変動には対応する事が出来る」とパーツ高を牽制する発言をした事も相俟って、海外時間には31.21パーツまで上昇。19日の海外時間に米SNS大手企業の大規模な個人情報漏えいを受けて米株が急落すると、翌20日には米株式市場の大幅な下落の流れを受けたドル売り優勢な動きが継続した。22日のFOMCでは利上げが決定されたもののパウエルFRB議長がハト派スタンスを見せたことからドルパーツは上値重く推移し、23日には米紙が米国はWTOに中国を通商法違反で提訴を発表予定と報じた事で、貿易戦争勃発の懸念から米株が下落すると、ドルパーツは31.17パーツまで下落。27日は海外投資家からの債券市場への資金流入が継続し、ドルパーツは31.12パーツで揉み合った。28日は、タイ中銀の金融政策委員会(MPC)が開催され、政策金利1.50%の据え置きが決定された。今回は1名が25bpの利上げを主張したことが明らかになるとドルパーツは利上げが意識され31.20割れまでパーツ高が進行した。

今月の見通し

●ドルパーツの上値は限定的か

G20財務相・中央銀行総裁会議の共同声明では「保護主義と引き続き戦う」とした昨年7月のハンブルク首脳宣言を再確認するとし、米政府の進める保護貿易主義的な措置の阻止に向けた説得の成果は一切得られなかった。ラガルドIMF専務理事が「貿易戦争は世界経済の成長を損なう。関税が自国にもたらす影響は甚大」と警告しているように、米国自身への負の影響も懸念されよう。また、コーン米国家経済会議議長が抗議の辞任をしたが、その直後にはイラン問題でトランプ大統領と対立したとされるティラーソン国務長官が更迭され、更には安全保障担当のマクマスター大統領補佐官も近いうちに辞任を迫られるのではないかと噂される等、米政権運営の不透明感が高まる一方と言える。貿易戦争にまで拡大する最悪のシナリオが意識されれば、ドル売り圧力は当然高まるものと想定している。

一方、MPCでは政策金利の据え置きが決定されたが、今回は22会合ぶりに参加者の意見が割れ、6:1の賛成多数での決定。1人が長期に亘って低金利を継続することのリスクを指摘し利上げを主張した。一人の委員会メンバーが25bpの利上げを主張したことがサプライズとなり、タイ金利市場は短期金利を中心に5bp程度上昇した。会合後の声明文で、タイ中銀は良好な輸出と緩やかに改善している内需により、タイ経済は堅調に拡大していると指摘。多くの委員会メンバーは現在の緩和的な金融政策が継続的な経済成長をもたらす、インフレ率を中銀のターゲット水準にまで引き上げると考えているため今回の決定を行ったと説明している。なお、今回利上げを主張した委員は継続的な金融緩和は家計や企業に財政状態の潜在的な変化を過小に見積もらせることになるとし、仮に25bpの利上げを実施したとしても経済成長を阻害しないと主張している。また、同時に公表された見通しでは2018年のGDP成長率と輸出の伸び率がそれぞれ前年比4.1%と7.0%に上方修正された。輸出に牽引される形でタイ経済は順調に拡大しており、構造的な経常黒字と海外投資家からのタイ債券市場への資金流入は継続しており、タイの旧正月であるソングクランを来月に控え、海外からの観光客が増加することを考えると、パーツ買いの圧力は当面続く可能性が高く、ドルパーツの上値が重い展開は当面継続すると考えている。

今月のつばやき(現地からの声)

「当地の有名な本や小説」

『メナムの残照(原題:Khu Kam)』

第二次世界大戦中のバンコクを舞台に日本海軍将校の「小堀」とタイ人女性アンスマリン(日本名:日出子)の悲恋を描いた日本人を主役とした最も有名な小説です。6回のテレビドラマ化、4回の映画化(直近では2013年)されたベストセラーで、おそらく「コボリ」はタイでは最も有名な日本人の姓で、レストランの店名などでも見かけます。

時代は太平洋戦争期の1941年。タイに進駐した日本軍青年大尉の小堀に、チュラロンコーン大学で日本語を学んでいたアンスマリンは惹かれていくものの、進駐してきた日本軍に対する反発心から当初は冷たくはねつけます。しかし、村で二人の関係が噂になると、日タイ親善という政治的利害関係も絡み合い結婚するのですが、激しくなる戦火に小堀は彼女を置いて逝ってしまう。。そして空爆を受けて倒れる小堀の側に駆け寄り、初めて心のうちを明かすアンスマリン。

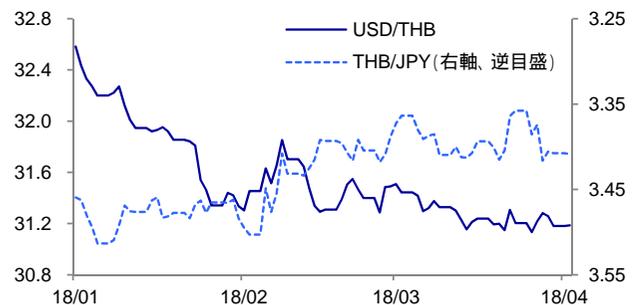
「わたしはあなたを好きにならないように務めました。そしていつも、自分の気持ちと戦ってきました。わたしがどんなに苦しんだか、わかりますか? 愛する人を好きにならないようにすることが、どんなにくるしいことか。」

日本軍に対する敵意と誠実でやさしい小堀への愛との間で葛藤するアンスマンの気持ちは、独立を保つために日本軍と連合軍の間で揺れ動いたタイの立場を表現しているようでもあり、第二次大戦当時の日タイ関係を感じ取ることのできる小説としてタイ人に長く愛されてきた作品です。

尚、直近の2013年に映画化された際の主題歌「Hideko」を歌ったのが、なんと当時バンコクで普通の日本人サラリーマンだった浪川祐輔さん。この映画をきっかけに主題歌もブレイクしたそうで、YoutubeでPVも見れますので是非。(関 浩士)

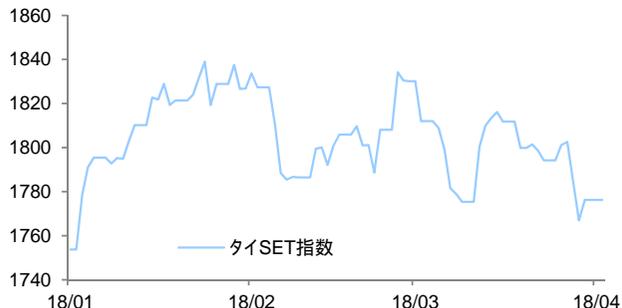
為替の動き

(資料)ブルームバーグ



株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



先月の注目イベント

(資料)ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/2	消費者物価指数(前年比)	2月	0.69%	0.42%	0.68%
3/2	CPIコア(前年比)	2月	0.60%	0.63%	0.58%
3/8	消費者信頼感景気指数	2月	-	66.20	67.00
3/21	輸出(通関バース/前年比)	2月	9.20%	10.30%	17.56%
3/28	タイ中央銀行政策決定会合(MPC)	3/28	1.50%	1.50%	1.50%
3/30	輸出(前年比)	2月	-	7.7%	16.70%
3/30	輸入(前年比)	2月	-	21.8%	22.50%
3/30	貿易収支	2月	-	\$2289M	\$1331M
3/30	経常収支	2月	\$5,600M	\$6157M	\$5,211M

マレーシアリング相場

予想レンジ:

USD/MYR	3.8500	~	3.9300
MYR/JPY	25.97	~	27.54
JPY/MYR	3.6300	~	3.8500

(100円あたり)

マレーシアみずほ銀行 山田 輝彦

先月の為替相場

3月のリングgitは3.9ちょうど前後での膠着感の強い相場展開となった。

月初のリングgitは3.92台前半で始まり、27日の海外時間でパウエル米FRB議長がタカ派的な議会証言を行った影響でリングgit売り圧力が強まる中、1日に3.9310までリングgitは売られた。ただ同じく1日の海外時間でトランプ米大統領が鉄鋼、アルミに関税を課すとの発言を受け保護主義の高まりへの警戒感からドル売りになったことで、リングgitは5日に3.8895まで買い戻された。しかし3.9割れのレベルではリングgit買いの勢いは弱く、3.9台に押し戻されると7日の金融政策会合も事前予想通り金利が据え置かれたことで市場の反応は鈍く、結局9日夜の2月米雇用統計発表を前に3.91台前半で取引を終えた。

月半ばに入ってもその米2月雇用統計の結果もまちな内容であったことで、リングgitは先週末からほぼ変わらない3.90台半ばの小動きに終始した。その後も緩慢な動きが続く中、海外時間14日にティラーソン米務長官解任との報道にも反応は鈍く3.9ちょうどを挟み小動きだったが、16日にマクマスター米大統領補佐官更迭方針との報道を嫌気したリスク回避の動きにリングgitはやや売られ、結局3.92台前半で取引を終えた。

月後半に入ると米現地時間21日のFOMCを前に様子見姿勢が強まり、3.91台レベルでの膠着状態となった。そのFOMCで事前予想通りFF金利が引き上げられ、また2018、19年の成長見通しを上方修正、長期金利見直しも引き上げたものの、その後のパウエルFRB議長の「遅すぎる利上げは経済にリスクをもたらす」との発言や貿易問題をリスクと指摘したことが嫌気されドルが売られたことに連れられ、22日のリングgitは若干買い戻された。しかし22日海外時間に米国が中国に対して米通商法301条発動との報道や、中国が米国に報復措置を講じるとの報道に貿易摩擦激化を嫌気して米国株が急落したことを受け、23日のリングgitはやや軟調地合いに転じ、結局3.91台後半で取引を終えた。
尚、26日は人民元が買われたことに連れられリングgitも17時時点で3.89台半ばまで買われている。

今月の見通し

4月のリングgitは方向感の出難い展開を予想。

2月の世界的に株式市場下落以降、リングgitは3.9ちょうど前後での小動きが続いている。国内経済指標もGDPは引続き好調を維持はしているが、消費者物価指数は原油価格の影響とは言え大きく下落してきており、追加利上げ期待感が高まるような状況ではなく、海外要因に振られる展開が4月も続きそうだ。特に米中間での貿易摩擦問題をはじめとする米国の通商政策、加えて米国の為替報告書が今月リリースされる予定であり、結果次第でリングgitは大きく方向感を変える可能性がある。地合いとしては引続きリングgit買い圧力がかかり易いものと見るが、各種イベントに注意を払っていく必要がある。

今月のつばやき(現地からの声)

『当地の有名な本や小説』

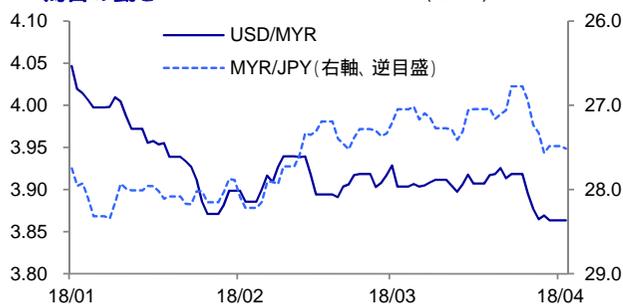
マレーシア語で本は『buku』と書くとおりに、本に該当する言語が存在しなかったものと思われ。つまり過去において本はマレーシアであり認知されていなかったのかもしれない。とは言ってもろくに探索もしたことはないですが、マレーシアのローカル本屋にはいろいろな本が山積みされているので、当地で有名な本や小説はあるだろうと、とりあえず資金課のスタッフに聞いてみました。私「マレーシアでみんなが読んだことのある有名な本って何？或いは有名な作家って誰？」スタッフ「ハリーポッターですかね」私「いやマレーシア人作家が書いた本、できればマレーシア語で」スタッフ「うん、そもそも本なんて読まないし、有名な作家なんていないんじゃないですか。読むなら英語の本で問題ないし」

その後、いろいろと本の名前が出てきましたが、みんなが知っている共通のタイトルは出てこず、やっぱり漫画だなという話で落ちました。ただ、『Peristiwa Bukit Kepong』というノンフィクションの本は一応みんな読んだことがあるんじゃないかという話でまとまりました。ということで私調べでは有名なマレーシア人作家はいないので、寧ろ漫画の方が読まれているようです。

尚、インターネット情報ではマレー系女性向けにマレーシアロマンスというジャンルのライトノベルが最近人気があるようです。

為替の動き

(資料) ブルームバーク



株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/5	輸出(前年比)	1月	13.0%	17.9%	4.7%
3/5	輸入(前年比)	1月	11.0%	11.6%	7.9%
3/5	貿易収支(MYR)	1月	7.90B	9.71B	7.25B
3/7	金融政策会合		3.25%	3.25%	3.25%
3/13	鉱工業生産(前年比)	1月	6.8%	3.0%	2.9%
3/13	製造業売上(前年比)	1月		10.8%	9.4%
3/21	CPI(前年比)	1月	1.9%	1.4%	2.7%
3/22	外貨準備高(USD)	2/15		103.6B	103.7B

インドネシアルピア相場

予想レンジ:

USD/IDR	13500	~	13900
IDR/JPY	0.75	~	0.80
JPY/IDR	125.00	~	134.00

(注)100インドネシアルピアあたりの対円レート

アジア・オセアニア資金部 河合 良介

先月の為替相場

3月のドルルピアは、13720~13805のレンジでの推移となり、13700台後半から13800台前半での高値圏での狭いレンジ取引となった。

13780近辺でスタートしたドルルピアは、1日、先月末からのルピア安の流れを引き継ぎ、月高値となる一時13805をつけたが、13800近辺では、中銀介入の観測もあり、上値は抑えられた。同日発表されたインドネシア2月消費者物価指数(CPI)は、前年比+3.18%とほぼ市場予想通りとなり、反応は限定的であった。

その後、13700台後半の値動きが続き、7日発表されたインドネシア2月外貨準備高は、前月比▲39億ドル減少し、中央銀行がルピア安定のための為替介入に外貨準備を使用したことが確認された格好。また、15日発表された2月インドネシア貿易収支は、▲1.16億ドルの赤字と3か月連続の赤字となった。

注目の米POMCでは、市場予想通り、利上げが決定されたが、パウエル新FRB議長の記者会見内容が、比較的ハト派と捉えられたことから、大きな混乱はなく、ドルルピアは、狭いレンジでの取引が継続。

月後半にかけ、米中貿易摩擦懸念によりリスクオフムードから、23日には、一時13795まで上昇し、結局、3月23日現在、ドルルピアは、13780近辺での取引となっている(終値ベース)。

一方の円ルピアは、2016年9月以来の131円ルピアまで円高ルピア安が進行している。

22日、インドネシア中銀が開催した定例会合では、市場予想通り、6か月連続で据え置きとした。

今月の見通し

今月のドルルピアは、ポジティブ材料なく、先月同様13700台後半での高値圏での取引が継続する、と予想する。

海外投資家のインドネシア国債保有残高は、2月末:848兆ルピアから、3月22日時点:843兆ルピアと微減となり、海外からの証券投資には、完全に歯止めがかかってしまった格好。

国内では、貿易収支が3か月連続の赤字、外貨準備も減少に転じ、国外も、米中貿易摩擦懸念によるリスクオフムードと、ポジティブな材料が見当たらない。

貿易収支の連続赤字計上は、今後の経常収支赤字拡大という形で、実需フローとしてのルピア売りを生み出しており、また海外投資家への心理面への影響から、更なる投資手控えへもつながる恐れがある。

外貨準備については、2月同様、3月もルピア安定のための為替介入に消費していると推測され、外貨準備減少が見込まれるが、絶対水準としては、相応の残高を維持していることから、まだ、急落のリスクは少ないだろう。

また、インドネシア中銀の金融政策は、不安定な為替動向を勘案、7か月連続の据え置きとなる公算が高い。

今月のつづやき(現地からの声)

『当地の有名な本や小説』

私自身、インドネシア語で、多少のコミュニケーションは取れるものの、小説や本を手にしたことはなく、インドネシア語の使用エリアは極めて限定的で、ちょっとした会話とインドネシアの歌です。

よく耳にするインドネシアソングを訳すと、「あなたに会いたい。」「あなたを愛している。」「あなたがいなくて寂しい。」等、抽象的な愛の表現が連呼されており、メロディーは、結構、耳に残るのですが、冷静に訳していくと、ほとんど、中身のない歌が多い(ように感じます)。

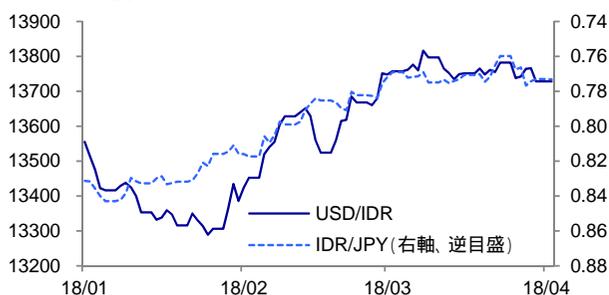
ここから推測できるのは、きっと本や小説も、歌同様、きっと薄味のものが多いのだろう、と言うことです(インドネシアの皆さますみません、、、)。

ネットでの評判を見てみると、やはり、同様の意見が多いようなので、あまり期待しない方が良いと思われる。

もし、「いやいや、君は、××を知らないのか?」という貴重な情報をお持ちの方がいらっしゃれば、是非、ご一報いただければと思います。

為替の動き

(資料)ブルームバーグ



株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



先月の注目イベント

(資料)ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/1	CPI(前年同月比)	2月	3.28%	3.18%	3.25%
3/7	外貨準備高(USD B)	2月	-	128.1	132.0
3/15	輸出(前年比)	2月	12.45%	11.76%	8.59%
3/15	貿易収支(USD M)	2月	-129	-116	-756
3/22	BI 7daysリバースレボ金利		4.25%	4.25%	4.25%

フィリピンペソ相場

予想レンジ: USD/PHP 51.90 ~ 53.00
 PHP/JPY 1.98 ~ 2.05

先月の為替相場

3月のドルペソ為替相場(オンショア市場)は1ドル=52.07ペソで取引開始。パウエルFRB議長のタカ派的な議会証言、および米2月ISM製造業景気指数が市場予想を大幅に上回ったことで、ドルペソ為替相場はこのまま、1ドル=52ペソ台で足固めするかに思えた。しかしながら、米上院銀行委員会公聴会でのパウエル議長の発言内容が、議会証言と比べハト派だったこと、ドルペソについていえば、年初からの早いペソ安ピッチで、当局介入が意識されたこともあり、ペソの買い戻しが優勢に。

米中の貿易摩擦を懸念したドル売り地合もあり、ドルの下値を探る局面もあったが、貿易摩擦がもたらすリスクオフ相場への懸念で、ドル買い需要は根強く、また、6日に発表された2月消費者物価指数(CPI)が3.9%となったことで22日に予定されているフィリピン中銀金融政策委員会での利上げ観測が後退し、ペソ売り材料に。

米2月雇用統計(9日)後には、アジア通貨買い地合にドルペソは再び1ドル=52ペソを割れる場面もあったが、ディップがあってもすぐに1ドル=52ペソ台を回復する相場展開が月央まで続き、16日(金)にはドル買いを仕掛けるような動きもあったが、当局介入が意識され上値の重さも確認された。

市場参加者はイベント(FOMC、フィリピン中銀金融政策委員会)を前に積極的な取引を手控えていた模様。

FOMC後のアジア通貨は予想よりも速いペースでの利上げが回避されたことからアジア通貨買いとなったが、ドルペソ為替相場への影響は限定的に。22日のオンショア取引終了後にフィリピン中銀は政策金利の据え置きを発表。インフレ見通しについては、2018年は3.9%、2019年は3.1%としており、中銀のインフレターゲットである2~4%に収まる見込みだ。

米比の金融政策の違いに加え、米国の通商政策を巡る混乱拡大が嫌気され、ドルペソ為替相場は23日には終値ベースで直近高値を更新、12年ぶりのペソ安水準である1米ドル=52.39ペソで終了。28日15時現在、連休を前にしてペソの買い戻しも見られ、1ドル=52.20-30ペソでの取引となっている。

今月の見通し

左記のペソ売り材料に加え、フィリピンの2017年経常収支は25.2億ドルの赤字となった。これは2016年対比で倍以上。15日に発表された1月の海外在留フィリピン人労働者(OFW)送金が前年同月比で9.7%増となったことは、単体で見ればペソ買材料だが、拡大が予想される貿易赤字を打ち返せないというのが市場評価。今後、ペソ買い材料にドルペソ為替市場が反応しなくなる可能性は否定できない。

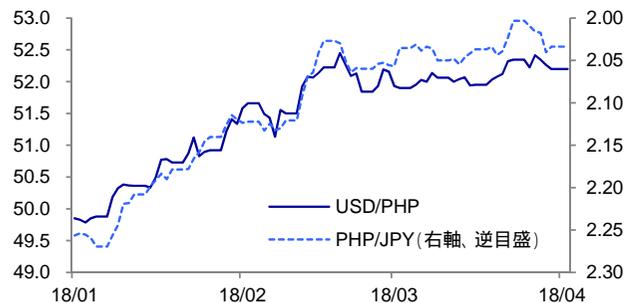
先月のフィリピン中銀金融委員会での政策金利据え置きは、2014年9月以来、28会合連続。16年6月に新システム「政策金利コリドー(IRC)方式」を導入してからは、15会合連続。中銀は、最低賃金や公共交通機関の運賃調整などがインフレ緩和につながると見ている。また、コメ輸入の数量制限を従量税に変更する方針などが、今後インフレを押し下げると分析。一方、引き続き物価の動向を注視していくステージであることは変わらずと言及した。

フィリピン株式指数(PSEi)は1月末の史上最高値から一転して大幅な下落を記録している。節目の8,000ポイントを下回り、昨年9月以来の安値圏。外国人投資家のフィリピン株の週次売買動向をみると8週連続で高水準の売りが続く。

米中間の貿易摩擦激化がやや緩和したとはいえ、市場センチメントは悪そうだ。また、米政権運営に対する懸念がつきまとう。斯かる状況下、投資家が積極的にリスクを取れる状態には程遠く、安全資産のドルが選好され、ドル高ペソ安トレンドが再開しそう。

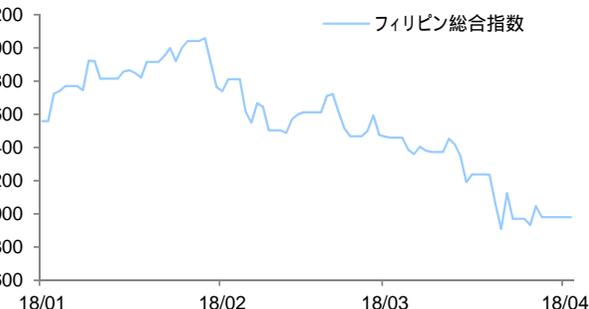
為替の動き

(資料)ブルームバーグ



株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



先月の注目イベント

発表日 イベント
 上記参照

(資料)ブルームバーグ

期間 予想 結果 前回

インドルピー相場

予想レンジ: USD/INR 64.00 ~ 65.50
INR/JPY 1.60 ~ 1.65

アジア・オセアニア資金部 インド室 田川 順也

先月の為替相場

【3月の米ドル/インドルピーは狭いレンジでの取引に終始した】

65.25レベルで3月取引をスタート。1日に一時的に65.27を超える場面があったが、これが当月と高値となり2日金曜日は当地休業につき高値圏で越え。

2週目は米関税政策に振られる展開。序盤は米ドルが下押しされる展開にドル/ルピーも下落する。最終的に鉄鋼25%・アルミ10%の輸入関税に関する文章にトランプ大統領は署名したものの、「NAFTA関連のメキシコおよびカナダの2国は適用外とする」、「今後の交渉次第では適用外とする国が他にも出てくる可能性がある」とのヘッドラインに安堵感が出るドルが買い戻される展開。

3週目は前週末の引け後に発表された米雇用統計が材料視され週初から緩やかにドル/ルピーは下落。ただ、14日にインド準備銀行(中央銀行、RBI)から不正対策として融資確約や信用状発行についての制限が発表されるとドル買いが先行。ドル/ルピーも浮上するも、その後アメリカからインドに対して過度な補助金により自国製品の競争力を不当に高めているとしてWTOに提訴すると、ドル/ルピーは下落。15日には当月の安値となる64.805を示現。

4週目は日米政局不安から65.20レベルまで上昇するも、RBI介入とみられるフローに止められ、上値追いはならず。

米・印両国から売り材料・買い材料が錯綜するも終わってみれば方向感の付きづらい展開であり、概ね64.90-65.20の狭いレンジに終始した。

【3月のインドルピー/日本円は上に往って来いの展開だった】

1.63レベルで3月をオープン。既述の金属輸入関税の話題にドル/円が105円前半まで一気に押されるとルピー/円も1.62まで急落。その後メキシコ・カナダを除くとのヘッドラインにドル/円が107円ミドルを試すタイミングでルピー/円も当月の高値となる1.65超を示現。

ただし、日本では森友文章問題、ホワイトハウス側では人員解任が続き、円高が進行。ドル/円が1年4か月ぶりとなる104円台に突入すると、23日執筆時点でルピー/円も1.61近辺での推移となっている。

今月の見通し

【4月の米ドル/インドルピーは上値の重い展開を想定】

先月はFOMCにて利上げを決定するとともに、成長率及び物価の見通しの上方修正、2019年の予想利上げ回数の引き上げが行われたものの、各市場の反応は芳しくなく、ドル安・金利低下となった。議長会見が新味に欠けるとの指摘も多いが、会合自体は盛りだくさんの内容だったにも関わらず、ドルが下落したというのは重く受け止める必要があるだろう。ドル買いにつながる最たる材料に裏切られた状況になっている。一方、貿易戦争および米政局不安については今しばらくマーケットに影響を与えるテーマとなりえそうで、一般的にはドル安だが、リスク回避的な動きが先行する場面では新興国通貨売りとなりやすく、この点ドル/ルピーの上昇要因となる場面があるだろう。

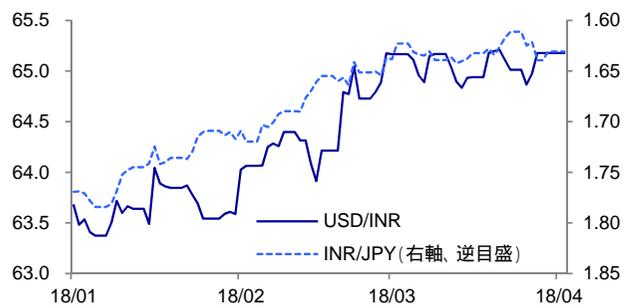
インドに目を向けると、引き続き経済指標は良好である。10-12月期GDPは事前予想を上回る7.2%の着地。製造業PMIは52.1、消費者物価指数は4.4%となっている。また貿易収支赤字の拡大から懸念されていた経常収支も事前予想を下回る赤字額だった。特に製造業PMIでは6-9月期平均が50.1、前四半期平均が52.5、前月・今月と連続して52を超えており、指標上では地場製造業は軒並み強いということが示唆される。またヘッドラインCPIこそ前月比でやや減速しているが、コアベースでは前月と同様の5.0%となっており、インフレが十分感じられる内容。

既述のように米国発のリスク回避の動きに注意しつつも、ルピーが強含む展開を想定したい。

加えて、ドル/円は下値余地があるように思われ、円高が進行する場面ではルピー/円の値動きに注意したい。

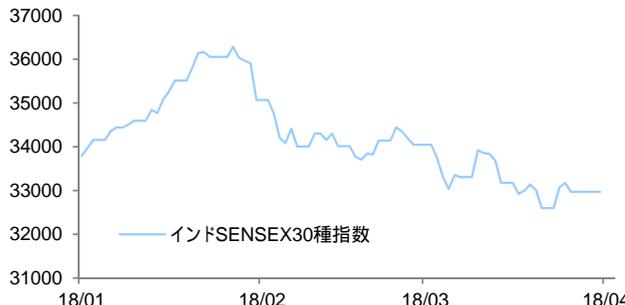
為替の動き

(資料)ブルームバーグ



株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/5	日経インドPMIサービス業	2月	-	47.8	51.7
3/12	消費者物価指数(前年比)	2月	4.70%	4.44%	5.07%
3/15	貿易収支	2月	142億ドル赤字	120億ドル赤字	163億ドル赤字
3/16	経常収支	4Q	159億ドル赤字	135億ドル赤字	72億ドル赤字

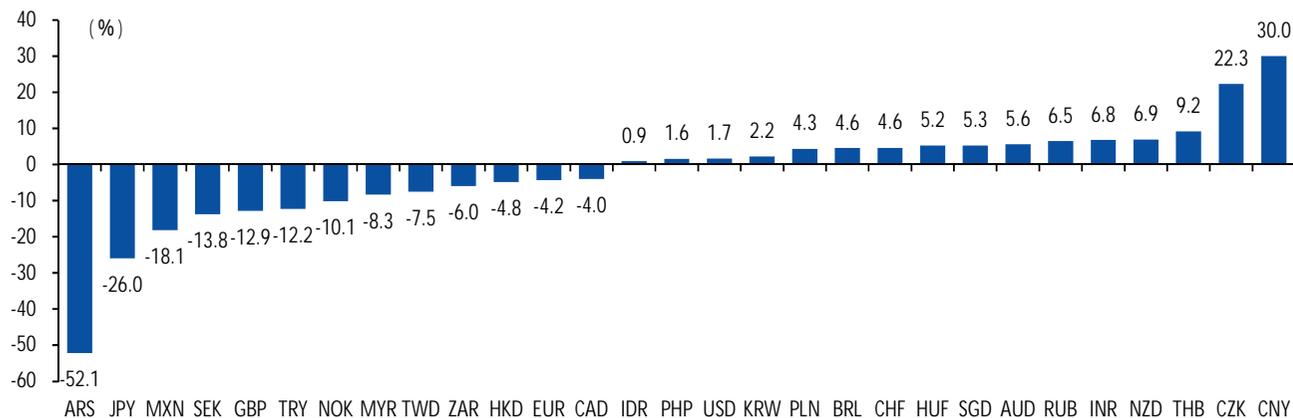
(資料)ブルームバーグ

為替市場・株式市場騰落率

	為替市場	2017年末	2018年3月末	騰落率	株式市場	2017年末	2018年2月末	騰落率	USD換算
先進国									
米国	-	-	-	-	NYダウ平均	24719.22	24103.11	-2.5%	-
日本	USD/JPY	112.69	106.28	-5.7%	日経平均株価	22764.94	21454.3	-5.8%	-0.1%
ユーロ圏	EUR/USD	1.2005	1.2324	2.7%	ドイツDAX指数	12917.64	12096.73	-6.4%	-6.4%
英国	GBP/USD	1.3513	1.4015	3.7%	ロンドンFTSE100指数	7687.77	7056.61	-8.2%	-11.5%
豪州	AUD/USD	0.7809	0.7679	-1.7%	S&P/ASX200指数	6065.129	5759.365	-5.0%	-3.4%
カナダ	USD/CAD	1.2571	1.29	2.6%	S&Pトロント総合指数	16209.13	15367.29	-5.2%	-7.6%
エマージングアジア									
中国	USD/CNY	6.5068	6.2755	-3.6%	上海総合	3307.172	3168.896	-4.2%	-0.6%
香港	USD/HKD	7.814	7.8488	0.4%	香港ハンセン	29919.15	30093.38	0.6%	0.1%
インド	USD/INR	63.8725	65.1775	2.0%	インドSENSEX30種	34056.83	32968.68	-3.2%	-5.1%
インドネシア	USD/IDR	13555	13728	1.3%	ジャカルタ総合	6355.654	6188.987	-2.6%	-3.8%
韓国	USD/KRW	1067.4	1063.63	-0.4%	韓国総合株価	2467.49	2445.85	-0.9%	-0.5%
マレーシア	USD/MYR	4.0465	3.8635	-4.5%	ブルサマレーシアKLCI	1796.81	1863.46	3.7%	8.6%
フィリピン	USD/PHP	49.85	52.2	4.7%	フィリピン総合	8558.42	7979.83	-6.8%	-11.0%
シンガポール	USD/SGD	1.336	1.3115	-1.8%	シンガポールST	3402.92	3427.97	0.7%	2.6%
台湾	USD/TWD	29.733	29.11	-2.1%	台湾加権	10642.86	10919.49	2.6%	4.8%
タイ	USD/THB	32.574	31.181	-4.3%	タイSET	1753.71	1776.26	1.3%	5.8%

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

実質実効為替レート(REER)の1994年以降の平均からの乖離(2018年2月時点)



実質GDP成長率

	2016Q2	2016Q3	2016Q4	2017Q1	2017Q2	2017Q3	2017Q4	2016	2017
	(前年比%、*前期比年率%)							(前年比%)	
先進国									
米国*	2.2	2.8	1.8	1.2	3.1	3.2	2.9	1.5	2.3
日本*	1.3	0.9	1.1	1.9	2.4	2.4	1.6	0.9	1.7
ユーロ圏	1.7	1.7	2.0	2.1	2.4	2.7	2.7	1.8	2.3
英国	1.8	2.0	2.0	2.1	1.9	1.8	1.4	1.9	1.4
豪州	3.3	2.1	2.5	1.9	2.0	2.9	2.4	2.6	2.3
カナダ*	-1.0	4.3	2.3	3.7	4.3	1.7	1.7	1.4	3.0
エマージングアジア									
中国	6.7	6.7	6.8	6.9	6.9	6.8	6.8	6.7	6.9
香港	1.8	2.2	3.3	4.3	3.9	3.7	3.4	2.1	3.8
インド	8.1	7.6	6.8	6.1	5.7	6.5	7.2	7.1	0.0
インドネシア	5.2	5.0	4.9	5.0	5.0	5.1	5.2	5.0	5.1
韓国	3.4	2.7	2.6	3.0	2.9	3.8	2.8	2.9	3.1
マレーシア	4.0	4.3	4.5	5.6	5.8	6.2	5.9	4.2	5.9
フィリピン	7.1	7.1	6.6	6.4	6.7	7.0	6.6	6.9	6.7
シンガポール	2.0	1.7	3.7	2.5	2.8	5.5	3.6	2.0	3.6
台湾	1.0	2.0	2.8	2.6	2.3	3.2	3.3	1.4	2.9
タイ	3.6	3.1	3.0	3.4	3.9	4.3	4.0	3.3	3.9

(注)インドの年間成長率は会計年度(4-3月)。

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

消費者物価上昇率

	17/08	17/09	17/10	17/11	17/12	18/01	18/02	2016	2017
	(前年比%)							(前年比%)	
先進国									
米国	1.9	2.2	2.0	2.2	2.1	2.1	2.2	1.3	2.1
日本	0.7	0.7	0.2	0.6	1.0	1.4	1.5	-0.1	0.5
ユーロ圏	1.5	1.5	1.4	1.5	1.4	1.3	1.1	0.2	1.5
英国	2.9	3.0	3.0	3.1	3.0	3.0	2.7	0.7	2.7
豪州		1.8			1.9			1.3	1.9
カナダ	1.4	1.6	1.4	2.1	1.9	1.7	2.2	1.4	1.6
エマージングアジア									
中国	1.8	1.6	1.9	1.7	1.8	1.5	2.9	2.0	1.6
香港	1.9	1.4	1.5	1.6	1.7	1.7	3.1	2.4	1.5
インド	3.3	3.3	3.6	4.9	5.2	5.1	4.4	5.0	3.3
インドネシア	3.8	3.7	3.6	3.3	3.6	3.3	3.2	3.5	3.8
韓国	2.6	2.1	1.8	1.3	1.5	1.0	1.4	1.0	1.5
マレーシア	3.7	4.3	3.7	3.4	3.5	2.7	1.4	2.1	3.9
フィリピン	3.1	3.4	3.5	3.3	3.3	4.0	4.5	1.8	3.2
シンガポール	0.4	0.4	0.4	0.6	0.4	0.0	0.5	-0.5	0.6
台湾	1.0	0.5	-0.3	0.3	1.2	0.9	2.2	1.4	0.6
タイ	0.3	0.9	0.9	1.0	0.8	0.7	0.4	0.2	0.7

(注)豪州は四半期データ。

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

失業率

	17/08	17/09	17/10	17/11	17/12	18/01	18/02	2016	2017
	(%)							(%)	
先進国									
米国	4.3	4.4	4.2	4.1	4.1	4.1	4.1	4.9	4.4
日本	2.8	2.8	2.8	2.8	2.7	2.7	2.4	3.1	2.8
ユーロ圏	9.0	9.0	8.9	8.8	8.7	8.6	8.6	10.0	9.1
英国	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4	4.3		4.9	4.5
豪州	5.6	5.5	5.5	5.4	5.4	5.6	5.5	5.7	5.6
カナダ	6.3	6.2	6.2	6.2	5.9	5.8	5.9	7.0	6.3
エマージングアジア									
中国		4.0			3.9			4.0	3.9
香港	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	2.9	3.4	3.1
インドネシア	5.5							5.6	5.4
韓国	3.5	3.7	3.7	3.6	3.7	3.7	3.6	3.7	3.7
マレーシア	3.4	3.4	3.4	3.3	3.3			3.5	3.4
フィリピン			5.0			5.3		5.5	5.7
シンガポール		2.1			2.1			2.1	2.2
台湾	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.9	3.8
タイ	1.1	1.2	1.3	1.1	1.0	1.3	1.3	1.0	1.2

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

経常収支

	2016Q2	2016Q3	2016Q4	2017Q1	2017Q2	2017Q3	2017Q4	2016	2017
	(対GDP比%)							(対GDP比%)	
先進国									
米国	-2.4	-2.4	-2.4	-2.3	-2.4	-2.3	-2.4	-2.4	-2.4
日本	3.5	3.6	3.8	3.8	3.8	4.0	4.0	3.8	4.0
ユーロ圏	3.5	3.4	3.3	3.3	3.0	3.2	3.5	3.3	3.5
英国	-5.8	-6.4	-5.8	-5.3	-5.2	-4.6	-4.1	-5.8	-4.1
豪州	-3.9	-2.9	-1.1	-1.3	-2.2	-2.0	-3.1	-2.9	-2.3
カナダ	-3.6	-3.6	-3.2	-2.9	-2.8	-2.8	-3.0	-3.2	-3.0
エマージングアジア									
中国	2.4	2.4	1.8	1.5	1.3	1.0	1.3	1.8	1.3
香港	4.6	4.1	3.8	3.4	3.7	4.4	4.2	3.8	4.2
インド	-0.8	-0.5	-0.6	-0.7	-1.3	-1.4	-1.5	-0.6	-1.5
インドネシア	-2.2	-2.2	-1.8	-1.5	-1.4	-1.3	-1.7	-1.8	-1.7
韓国	8.0	7.4	7.0	6.3	5.5	5.6	5.1	7.0	5.1
マレーシア	1.9	1.9	2.1	2.0	2.6	3.0	3.0	2.1	3.0
フィリピン	1.1	1.0	0.2	-0.2	-0.3	-0.3	-0.8	0.2	-0.8
シンガポール	18.8	19.5	19.0	19.9	19.3	18.8	19.3	19.0	19.3
台湾	14.3	13.6	13.4	12.8	12.6	13.2	14.5	13.4	14.5
タイ	10.9	12.1	11.7	11.1	10.6	10.8	10.8	11.7	

(注)インドの年間経常収支は会計年度(4-3月)。

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

世界の政策金利

		現在 (%)	政策転換期		最近の政策変更		直近の政策動向	
			日付	水準 (%)	日付	(単位:bp)	日付	決定事項
先進国								
米国	FFレート誘導目標	1.50- 1.75	引き締め: 2015/12/17	0.25 - 0.50	2018/3/21	+25	2018/3/21	+25bp
日本	無担保コール翌日物金利	0.10	緩和: 2008/10/30	0.50	2010/10/5	0-10	2018/3/9	現状維持
ユーロ圏	主要リファイナンスオペ金利	0.00	緩和: 2011/11/3	1.50	2016/3/10	-5	2018/3/8	現状維持
英国	バンク・レート	0.50	引き締め: 2017/11/2	0.25	2017/11/2	+25	2018/3/22	現状維持
豪州	キャッシュ・レート	1.50	緩和: 2011/11/1	4.75	2015/8/2	-25	2018/3/6	現状維持
カナダ	翌日物金利	1.25	引き締め: 2017/7/12	0.50	2018/1/17	+25	2018/3/7	現状維持
エマージングアジア								
中国	1年物貸出基準金利	4.35	緩和: 2012/6/8	6.31	2015/8/25	-25	2015/10/23	-25bp
インド	翌日物レポ金利	6.00	緩和: 2015/1/15	8.00	2017/8/2	-25	2018/2/7	現状維持
インドネシア	7日物リバースレポレート	4.25	緩和: 2015/2/17	7.75	2017/9/22	-25	2018/3/22	現状維持
韓国	7日物レポ金利	1.50	引き締め: 2017/11/30	1.25	2017/11/30	+25	2018/2/27	現状維持
マレーシア	翌日物金利	3.25	引き締め: 2018/1/23	3.00	2018/1/23	+25	2018/3/7	現状維持
フィリピン	翌日物金利	3.00	緩和: 2016/5/16	3.00	2016/5/16	-100	2018/3/22	現状維持
タイ	翌日物レポ金利	1.50	緩和: 2011/11/30	3.50	2015/3/11	-25	2018/3/28	現状維持
ベトナム	リファイナンス金利	6.25	緩和: 2012/3/12	15.00	2017/7/7	-25	2017/7/7	-25bp

(注)インドネシア中銀は2016年8月19日に政策金利をBレートから7日物リバースレポレートに変更

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行